

第5回リニア駅周辺整備検討会議 次第

平成28年3月14日（月）13時30分～

飯田市役所 C311～C313 会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告事項

(1) 第4回リニア駅周辺整備検討会議の報告 [資料 1、2]

4 協議事項

(1) 各部会の状況報告と検討の方向について

1) トランジットハブ・道路ネットワーク部会 [資料 3]

2) 魅力発信部会 [資料 4]

3) 環境・景観部会 [資料 5]

(2) 今後の進め方について [資料 6]

(3) アイデア募集について [資料 7]

(4) 平成27年度のまとめ

1) リニア関連計画の整理 [資料 8-1]

2) 現況調査 [資料 8-2]

3) 基本計画の検討 [資料 8-3]

5 閉 会

第5回リニア駅周辺整備検討会議 出席者名簿

委 員

	氏 名	役 職
学識経験者	小澤 一郎	(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター理事長
	瀬田 史彦	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授
	大西 達也	(一財) 日本経済研究所調査局長 兼地域未来研究センター副局長
リニア駅計画地域の代表	北原 三三	座光寺地域自治会長
	岡田 忠義	上郷地域まちづくり委員会副会長
	小平 茂樹	上郷北条まちづくり委員会会長
各種団体の代表者	柴田 忠昭	飯田商工会議所会頭
	遠山 邦一	みなみ信州農業協同組合 リニア総合対策室長
	萩本 範文	長野県経営者協会飯田支部長
	中島 一夫	飯田観光協会会長
		信南交通(株)代表取締役社長 (公共交通関係機関)
鈴木 佳史	長野県タクシー協会下伊那支部長 (公共交通関係機関)	
行政機関	安藤 嘉夫	長野県建設部リニア整備推進局長
	有賀 秀敏	長野県下伊那地方事務所長
	水間 武樹	長野県飯田建設事務所長
	廣瀬 一男	上伊那広域連合事務局長
	塚平 裕	南信州広域連合事務局事務局次長 (代理出席)
行政機関 (飯田市)	佐藤 健	飯田市副市長

部 会

トランジットハブ・ 道路ネットワーク部会長	鈴木 弘司	国立大学法人名古屋工業大学都市社会工学科准教授
魅力発信部会長	中島 一夫	飯田観光協会会長

オブザーバー

事業主体	太田垣 宏司	東海旅客鉄道(株) 中央新幹線推進本部中央新幹線建設部名古屋建設部担当課長
------	--------	--

飯田市関係部長

飯田市	菅沼 文秀	総務部長
	今村 和男	総合政策部長
	竹前 雅夫	市民協働環境部長
	高田 修	産業経済部長
	井坪 憲俊	建設部長
	木下 悦夫	リニア推進部長
	今井 清隆	建設部参事兼リニア推進部参事

第4回リニア駅周辺整備検討会議の報告

日時：平成28年2月12日 15:00～

場所：飯田市役所 C311～313号会議室

1 会議内容

- (1) 第3回検討会議について
- (2) 伊那谷自治体会議について
- (3) 駅周辺の住みやすさを考える会（仮称）について
- (4) 今後の進め方について
- (5) 各部会の検討状況について

2 主な意見の概要

(1) アイデア募集について

- ①幅広く意見を募集することになっているが、若い方の意見が積極的に集まるよう工夫をしてほしい。
- ②デザインという言葉はいろいろな受け止め方ができると思うが、魅力発信部会のミッションからすると、頂いたアイデアを十分活かされるように、しっかりと募集条件を整理したほうがよい。
- ③自分のアイデアが少しでも取り入れられることで、地域に対する愛着も生まれると思う。
- ④地域の歴史や文化を捉えていないという観点で、有名建築家が設計したものがキャンセルされるという事例が発生しているので、市民の関心を促すこと、市民の意見を取り入れる仕組みは重要である。また、それをどれだけ取り入れられるかが課題である。

(2) 環境・景観部会（委員）について

- ①上伊那地域で統一看板に関する検討をしていることもあり、上伊那地域の代表も委員に加えて頂きたい。
- ②これまでと異なる新しい駅にするためには、地元地域と外部から見た価値の双方に明るい方がメンバーに入ったほうがよい。
- ③誰を部会のメンバーに入れるかということではなく、上下伊那双方の意見（伊那谷らしさ）を取り入れるという視点を持つことが重要である。

(3) 環境・景観部会（内容）について

- ①環境は広域的な検討が必要であるが、景観は視覚的に見える範囲でいえば、そんなに広域的にならない。このように、環境と景観で重なる部分と異なる部分を認識しておく必要がある。

（次頁に続く）

- ②国際的、国全体で未来を見据えた環境面での取組が進められる中で、飯田市は「環境モデル都市」になっているので、具体的に何に取り組むのかを検討しなければならない。
- ③飯田市は「環境モデル都市」を掲げているので、10年後を見据えた場合、リニア車両以外の電力を水素により供給すれば、アピール度が高いと思う。
- ④水素化社会に関する提案はいろいろ出ているが、交通分野以外ではうまく取り入れられてないのが現状であるので、整備区域内での検討を進めて頂きたい。
- ⑤「ゼロ・エネルギー・ビル（ZEB）」という言葉は閣議決定文書にも記載されているので、「環境モデル都市」として、駅周辺地域の建物でゼブを実現することは重要である。
- ⑥リニア駅周辺では、水素システムでゼロエネルギー化することが重要であり、そのコストやメリットについて、地域の方と合意形成を進めていくための検討をして頂きたい。

(4) その他

- ①車のスムーズな流れを考えると、整備区域内に南北道路を設けたほうがよい。

リニアバレー構想 ～信州・日本の伊那谷から世界の INA Valley へ～

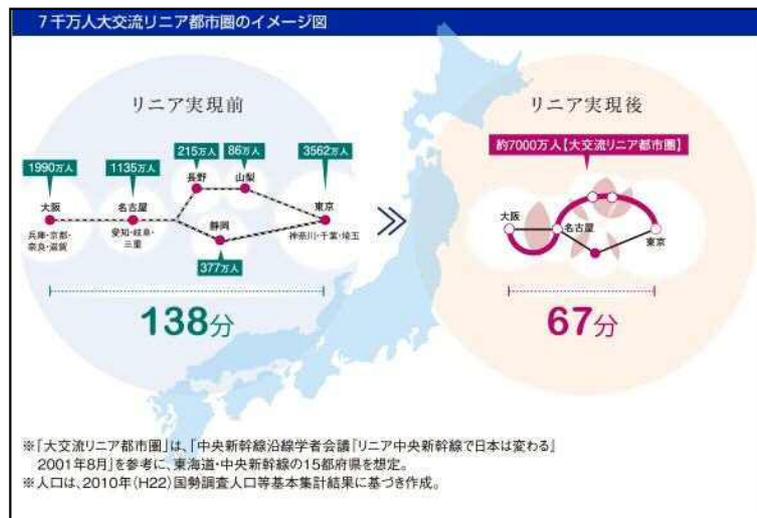
リニア中央新幹線整備を
地域振興に活かす伊那谷自治体会議

1 はじめに

➤ リニアが伊那谷にもたらすもの

○リニア中央新幹線は、その超高速性により国土構造の変革をもたらす国家的見地に立ったプロジェクトである。この新幹線により、三大都市圏がそれぞれの特色を發揮しつつ一体化し、世界最大のスーパー・メガリージョンが形成されることになり、4つの国際空港、2つの国際戦略港湾を共有した、世界から人・モノ・カネ・情報を引き付け、世界を先導していく地域に変貌する可能性が生まれる。

《スーパー・メガリージョンの形成》



(出典) リニア中央新幹線建設促進期成同盟会ホームページ

○リニア中央新幹線により三大都市圏の主要拠点が約1時間で結ばれることを受け、長野県が大都市圏と同一の交通圏に含まれることとなる。
さらには、人の移動といった輸送面のみならず、都市圏との新たな人の流れが創出されることにより、飛躍的に知の集積も進むことになり、産業・研究・人材育成など各分野の構造に大きなインパクトを与える。

《ナレッジ・リンクの形成》



(出典) 国土のグランドデザイン2050

《高度な都市空間と大自然に囲まれた空間が
近接した新しいライフスタイルが実現》

○リニア長野県駅の活用により、これまで都会から短時間でのアクセスが困難だった地域への人の流れを生み出し、優れた景観や自然環境との日常的な触れ合いを可能にするなど、高度な都市空間と大自然に囲まれた空間が近接した新しいライフスタイルが実現する。



《本州中央部広域交流圏のイメージ》

○リニア中央新幹線と北陸新幹線、並びに高速道路網の整備により、東日本と西日本、太平洋と日本海を結ぶ「本州中央部広域交流圏」が本県を中心に構築され、それが災害に強い国土づくり、田舎暮らしの促進による地方への人の流れの創出につながる。
また、東京一極集中からの脱却にも寄与できる。

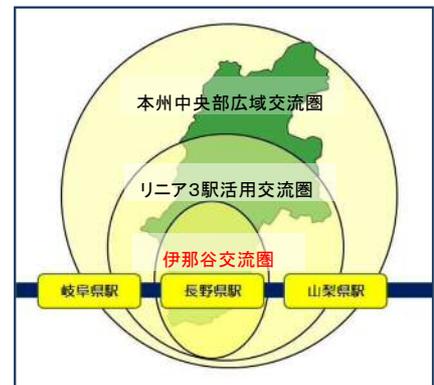


(出典) 長野県新総合交通ビジョン

➤ 長野県リニア活用基本構想との関係

「長野県リニア活用基本構想」では、右図に示した3つの重層的な交流圏を構築することによって、交流人口の拡大などリニアの整備効果を最大限に発揮させていくことを想定している。

リニアバレー構想は、リニア長野県駅の駅勢圏である「伊那谷交流圏」を今後どのように形成していくかの指針となるものである。



(出典) 長野県リニア活用基本構想

2 リニアバレー構想が目指す姿

平成 39 年にリニア中央新幹線の間際駅が伊那谷に設置される。

この地域が、リニアの整備効果を最大限に活用して、地域発展の原動力とすることで、身近になる大都市や世界の活力を引き寄せ、豊かな自然環境の中で地域も人々も輝く「リニアバレー」を実現する。

- I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点
～世界とつながる～
- II 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点
～日本を支える～
- III 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」
～ここで豊かに暮らす～
- IV 世界から人を呼び込む感動フィールド
～ここでふれあう～

I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点 ～世界とつながる～

○首都圏と中京圏との中間に位置することに加え、アジアや欧米諸国の主要都市への玄関口である東京国際空港や中部国際空港へのアクセスが1時間程度となる。伊那谷では、特に東京国際空港へ東京近郊感覚でアクセスが可能となることや、恵まれた自然環境と高い精密加工技術を有する企業集積があることなどの特徴を踏まえ、外資系企業やグローバル経済圏で活動する企業の中核機能の受け皿を目指すとともに、既存の産業集積を活かした次世代産業の創出を目指す。

《目指す姿を実現するために》

- ・国際空港への近接性を活かすとともに、創業支援やビジネスマッチングの取り組みを進めることで、外資系企業やグローバル経済圏で活動する企業の本社、研究開発機能などの中核機能の立地を促進する。さらに、リニア中央新幹線の開通に伴うメリットを既存産業の活性化につなげることで、高度な都市生活と豊かな自然環境が共生する新しい企業集積地を目指す。
- ・最先端産業や地場産業の支援機能、大学連携組織、高等教育機関などを結集させることにより、産・学・官・地域の人的交流の場、ナレッジスクエアを形成し、「知」と「産業」の集積を進める。また、これらの推進に当たっては、産学官など関係者の連携により、基盤となる事業や中核となる体制づくりについての研究を進め、その成果を発信することで、グローバル活動拠点としての優位性につなげていく。
- ・国際戦略総合特区「アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」の指定を活かしつつ、アジア最大級の航空宇宙産業集積地である東海地域と伊那谷とのアクセス向上により、技術連携を進め、本県の強みである微細精密加工技術を活用した航空宇宙産業クラスターの形成を促進する。

- ・健康・医療・介護分野への企業の新規参入を促進するとともに、県看護大学や地域の医療機関をはじめとする関係機関等との連携を深め、新たな医療系食品の研究や医療機関からのニーズを反映した医療機器の開発、医療に携わる者の人材育成・確保のための取り組みなどを進めることにより、健康長寿社会を支える産業集積（メディカルバイオクラスター）を目指す。

Ⅱ 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点 ～日本を支える～

- 首都直下地震の発生リスクが高まる中で、首都圏と中京圏の中間に位置し、かつ大都市圏との移動時間が短いという地の利を活かして、都市機能や政府系研究機関の移転、企業の中枢機能のバックアップ施設や災害発生時の食料供給・医療提供の拠点の受け皿などにより、日本を支える役割を目指す。
- 農産物の付加価値を高めるアグリビジネスの推進や森林資源の活用など、伊那谷の多様な資源を活用することにより、食料やエネルギーなどの新しい供給拠点を目指す。

《目指す姿を実現するために》

- ・優良な農業環境や豊富な水資源を有し、内陸県であって津波の被害を受けないなど災害に対して強みを有している伊那谷の特性を十分に検証することで、首都直下地震発生時に日本を支えリスク分散を図る地域として強くアピールし、研究機関や企業の本社機能など都市機能の移転を促進する。なお、これらの推進に当たっては、関係機関で先進事例の研究や課題の整理などを行い、災害時のバックアップ拠点として、都市部から求められる地域像について検討する。
- ・巨大災害発生により首都圏にある本社機能が被災しても円滑に事業活動が継続できるよう、企業経営者の居住地等を整備する。
- ・地域医療の体制・連携を更に充実させることにより、発災時の後方医療支援拠点、災害活動拠点としての機能整備を図る。
- ・県の道路ネットワーク構想を補完する形で市町村道等の道路網構想を策定し、日常の道路交通の確保を図るとともに、災害時の緊急輸送ルート確保のための道路整備や橋梁の耐震補強に取り組む。また、土砂災害対策など、圏域をあげての防災力向上に取り組む。
- ・伊那谷に位置する大学等の知的財産を活用した産学官連携による、農畜産業、食品産業及び関連産業を活性化するための取り組み（アグライノベーション）を進める。また、地域在来の農林産物や食文化の特性を改めて見直し、農産物の新たなブランド化、伊那谷の特産品を活かした6次産業化など付加価値の高いアグリビジネスによって、健康長寿県における食をメインとした伊那谷モデルを構築し地域の魅力を高める。
- ・ヒノキ、アカマツ、カラマツなど伊那谷の多様な樹種を活用できるよう、各機関が連携し、木造住宅の建設を図るための木材の安定供給体制の構築や森林環境保全、木質バイオマスの利活用の推進、森林整備の担い手の確保・育成などに取り組み、林業振興を進める。

Ⅲ 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」 ～ここで豊かに暮らす～

- 「高度な都市環境の中で働き、大自然に囲まれた環境の中で暮らす」、「平日は大都市圏に住んでいても、週末や一定期間に限って豊かな自然環境の中で伝統文化に触れて暮らす」など、新しいライフスタイルを提供する「対流促進圏域」を形成する。
- 伊那谷の伝統文化や自然環境を守るなど、住民が伊那谷で豊かに暮らすための取り組みを進める。

《目指す姿を実現するために》

【移住定住・二地域居住の促進】

- ・都市圏での二地域居住に関する意向調査や他都市の先進地事例の情報収集、新たな生活モデルの提案などについて、広域連合や定住自立圏の枠組みを活用し、研究を進める。
- ・伊那谷を「思考活動・憩い・住居の場」と位置付けた上で、「東京・名古屋への通勤ゾーン」「二地域居住ゾーン」など、様々な居住ニーズに応じた圏域内のゾーニングについて検討を進める。
- ・リニア長野県駅へのアクセス環境に応じて、分譲地の整備や空き家の改修、相談体制の充実など、定住や二地域居住に必要な環境の整備及び各種支援策の検討を進めるとともに、U J I ターン希望者や首都圏の学生などへのきめ細やかな情報提供を行う。
- ・都会で生まれ育った人たちに対し、自然エネルギーの活用によるエコロジーに着目した生活スタイルやクラインガルテンでのお試し居住を提案していくなど、定住につながる取り組みの充実を図る。

【豊かに暮らすための地域づくり】

- ・我が国を代表する伊那谷の伝統文化の保存と継承に向けた活動を進め、郷土意識の醸成や担い手の育成・確保に努めるとともに、誇りある資産として地域の活性化に活かしていく。
- ・特色ある食文化を背景とした健康長寿に向けた取組、子育てしやすく、子どもたちの希望がかなう教育環境の整備、地域の子どもたちへの郷土愛の醸成など、様々な視点から伊那谷に住む人が豊かに暮らすための地域づくりを推進し、新たな文化の創造につなげる。
- ・これらの取組を通じ、将来的に伊那谷を支える人材を育てるとともに、若者を引き付ける魅力ある地域を目指す。

【魅力ある自然環境の保全と景観の形成】

- ・南アルプスの世界遺産への登録や中央アルプスのジオパーク認定に向けての取組、中央アルプス県立公園の国定公園への格上げに向けた研究などを通じ、アルプスや里山の山並み、段丘や田園風景など伊那谷の美しく雄大な自然環境を守り、地域の宝として育て活かしていく。
- ・恵まれた自然や先人により育まれた歴史・文化が織りなす町並みなど、伊那谷地域が誇る美しく豊かな景観を守り継承するとともに、リニア整備を契機として新たに創り出される景観が魅力あるものとなるよう、広域的な看板デザインのルール化や屋外広告物の規制にも取り組み、調和の取れた景観の形成を目指す。

Ⅳ 世界から人を呼び込む感動フィールド ～ここでふれあう～

○南アルプス、中央アルプスといった山岳高原や多彩な伝統文化を活かして、美しい信州の原風景や文化にふれあうなど、インバウンドも含めた広域観光の推進により交流人口が拡大する感動のフィールドを目指す。

《目指す姿を実現するために》

【広域観光ルートづくり】

- ・自治体、観光協会、観光関係団体、旅行事業者等で構成する協議会等を設置し、木曾路をはじめ他の観光地と結んだ旅の提案や北陸新幹線との連携など、広域的な信州の旅を満喫できるよう、日本アルプスの玄関口としての役割が期待されるリニア長野県駅を拠点とした多様な観光ルートづくりに取り組む。
- ・交通事業者と連携し、リニア長野県駅からの二次交通の確保・整備を進める。

【体験型観光の推進】

- ・観光協会や民間事業者等と連携し観光資源の掘り起こしを進め、豊かな里山資源を活用した山菜・きのこ狩り体験や農業体験、田舎暮らし体験、登山・山岳散策をはじめとするアウトドアスポーツなど、魅力ある多様な体験ツーリズムを確立する。
- ・健康志向の高まりの中で、豊かな自然環境、温泉、農産物を活かし、健康に関心を持つ多くの方に訪れていただくよう、ヘルスツーリズムを推進する。
- ・全国に先駆けて実施した、生活文化を活かした体験修学旅行を更に発展させ、フィールドスタディの誘致を促進する。
- ・コーディネーターなどの担い手の育成や効果的な情報発信のあり方など、体制整備について検討する。

【外国人旅行者の誘客】

- ・マーケティング調査によるトレンドの把握等を通じ、伊那谷の伝統・文化を活かした観光資源を磨き上げ、観光地や宿泊施設の魅力向上、滞在プログラムづくりなど、外国人旅行者に対する訴求性を持った観光ルートの形成に地域をあげて取り組む。また、海外へのプロモーションについても検討する。
- ・外国人旅行者が安心して快適に移動・滞在することができるよう、観光情報の一元化や情報発信に向けた広域的な連携を進めるとともに、案内標識やパンフレット等の多言語化、公衆無線 LAN 環境の整備など、得たい情報へのアクセスが容易になるような仕組みを検討する。

【豊かな自然と実績を活かした国際交流】

- ・独立行政法人国際協力機構・青年海外協力隊訓練所を拠点としたグローバル人材の育成、在日大使館との連携を進めるとともに、国の内外から様々な会議を誘致するなど、豊かな自然環境や伝統文化を活かした国際交流を推進する。
- ・リニア時代に地域の主役となる子どもたちへの国際理解教育や語学教育を進める。

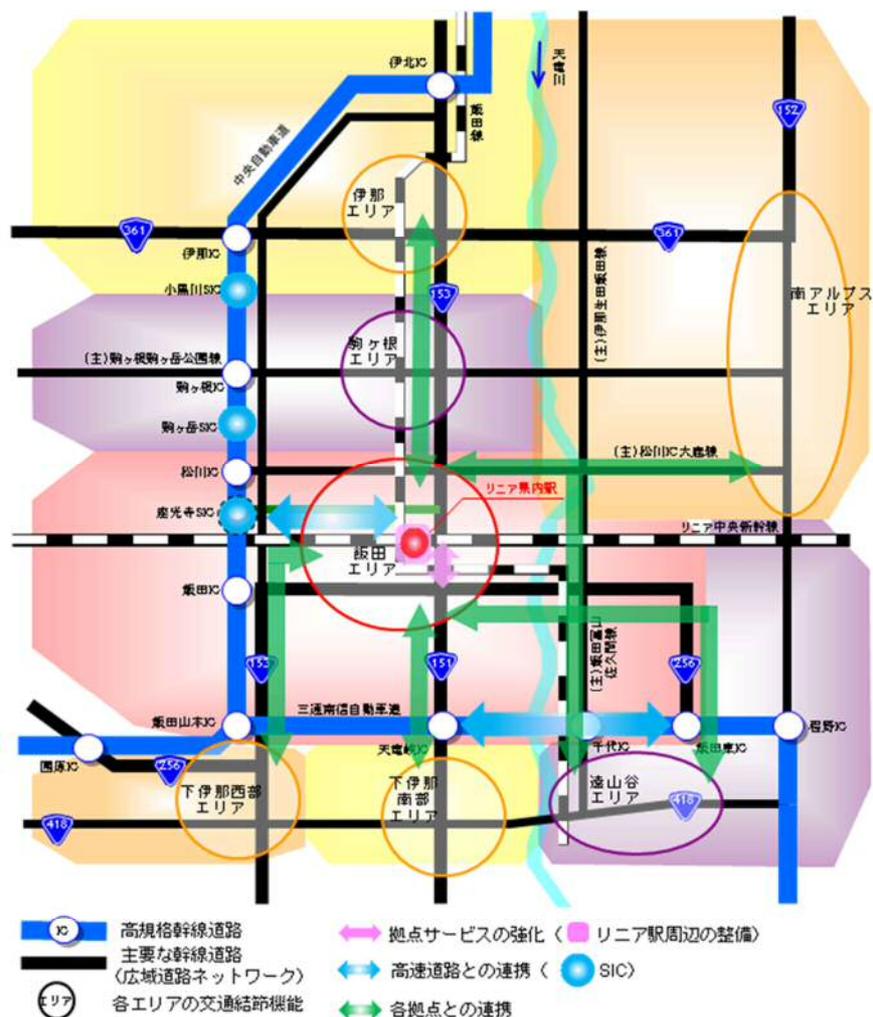
3 構想実現のための基盤整備

- リニアバレー構想の実現に向け、長野県の南の玄関口となるリニア長野県駅を多くの人々にとって利用しやすい駅とするため、県内外の広範な地域からの多様で良好なアクセスを確保する。
- こうした整備を進めることで、伊那谷の人口のおよそ85%が東京圏90分圏域、60%が名古屋圏60分圏域となるようにする。

➤ 目指す姿を実現するために

- ・三遠南信自動車道等の整備や高速道路とリニア長野県駅との直結、スマートインターチェンジの設置など、リニア長野県駅と高速道路との連携を強化するとともに、拠点間を円滑に結ぶ幹線道路を整備するなど、伊那谷の広域道路ネットワークを構築する。
- ・リニア長野県駅からの乗換を円滑に進めるため、駅周辺の広場や道路の整備を図るとともに、二次交通の整備など、住民や観光客の利便性向上に向けた取組みを進める。
- ・J R 飯田線への乗換新駅設置の検討や、リニアのダイヤに合わせた在来線運行体系の実現に向けた調整など、リニア長野県駅とJ R 飯田線との連携に向けた取組を進める。

《広域ネットワークのイメージ図》



※図は『リニアを活かした「地域づくり勉強会」』検討成果から抜粋

4 検討スケジュール

分野	時期	第1期(～H29)	第2期(H30～34)	第3期(H35～39)	開業以降(H39～)
地域振興	I 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点	産業振興 産業振興策の検討 ■各自治体の長期計画等に照らした施策の検討・推進 ■関係機関の連携強化	産業の集積と次世代産業の創出 ■伊那谷地域における人的交流の場の創出、「知」と「産業」の集積の推進 ■航空宇宙産業クラスターの形成促進 ■健康長寿社会を支えるメディカルバイオクラスター形成に向けた取組みの推進		リニアを活かした更なる取組み、戦略の検討
	II 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点	機能移転 都市機能・政府機能の移転等に関する検討 ■国への提案・提言 ■関係機関による連携と研究の推進	都市機能・政府機能の移転等の実現 ■巨大災害時のバックアップ拠点的形成促進(居住地、医療、インフラ等) ■日本を支えるエネルギー供給拠点を旨とした取組みの推進(アグリビジネス・森林資源の活用等)		
	III 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」	移住定住 環境景観整備 移住定住・二地域居住等に関する検討 ■リニア開業に向けた移住定住に関する施策の検討 ■先進地事例の情報収集 環境保全と景観形成に関する検討 ■関係機関における方向性の確認・調整	移住定住・二地域居住の促進 ■移住地確保、移住促進施策の展開 豊かに暮らすための地域づくり ■各自治体の取組みの推進 環境保全と景観の形成 ■環境保全、景観形成に係る指針の策定	移住定住・二地域居住の促進 ■情報発信(イベント実施・情報提供)、斡旋 調和のとれた景観形成のための取組み	
	IV 世界から人を呼び込む感動フィールド	広域観光 広域交通 広域観光・広域公共交通に関する検討 ■広域観光の方向性・体制の検討 ■各自治体における観光資源の掘起こし ■広域公共交通(二次交通)のあり方 ■交流人口拡大に向けた施策の検討	広域観光ルートづくり ■広域観光ルートの検討 ■二次交通の検討 インバウンドの推進等 ■海外プロモーション・情報発信の方向性 ■体験型観光の検討 ■国際交流施策の推進	総合的な観光施策の推進 ■検討に基づく体制の構築・整備の推進 ■情報発信体制の検討・情報環境(多言語等による案内など)の整備 ■人材育成	
基盤等整備	リニア関連基盤整備(県・関係機関)	アクセス整備	県公表の「リニア道路関連整備」を踏まえ、リニア駅を中心とした道路ネットワークの構築に向けた検討・設計・整備		道路ネットワークの更なる強化
	【参考】 リニア駅周辺整備(飯田市)	駅周辺整備	基本構想	整備計画	リニア駅周辺整備に係る検討・設計・整備

※図中の赤枠は広域的な議論の中で進めていくことが望まれる部分

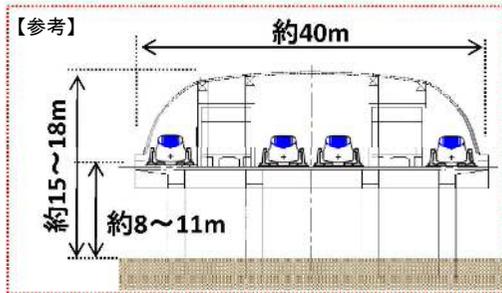
1. コンコースの高さのイメージ

コンコースの高さをあらかじめ整理し、それを踏まえて駅周辺の造成高さを設定する。
 具体的な数値は、JR 東海から示されていないため、想定して検討を進める。

想定 駅舎天井上部高：443.0m

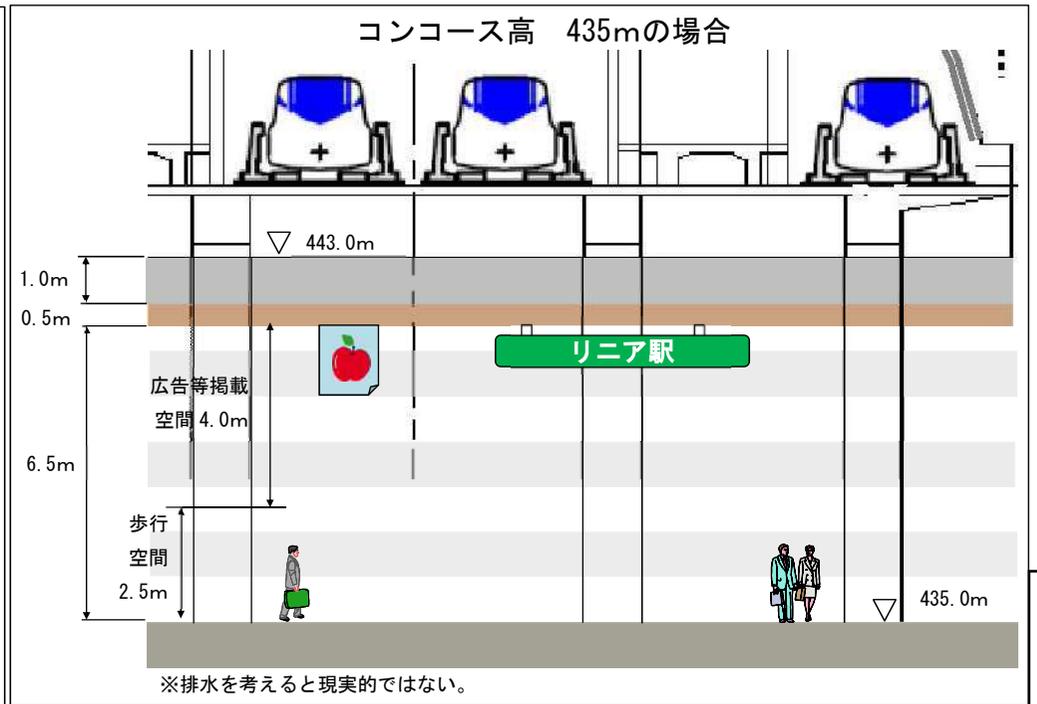
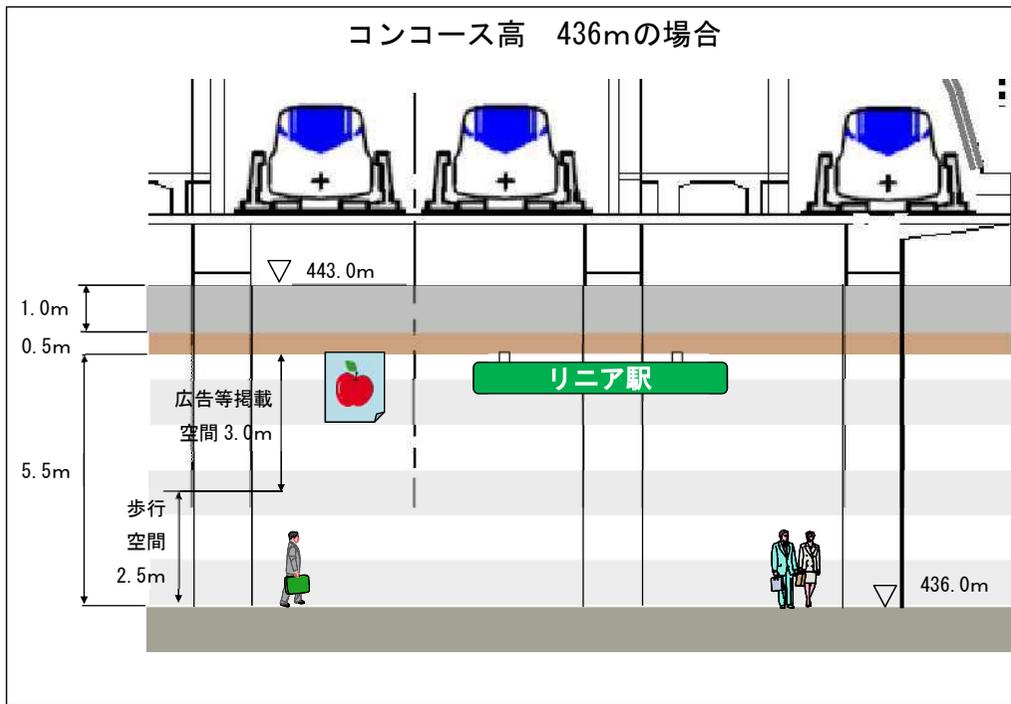
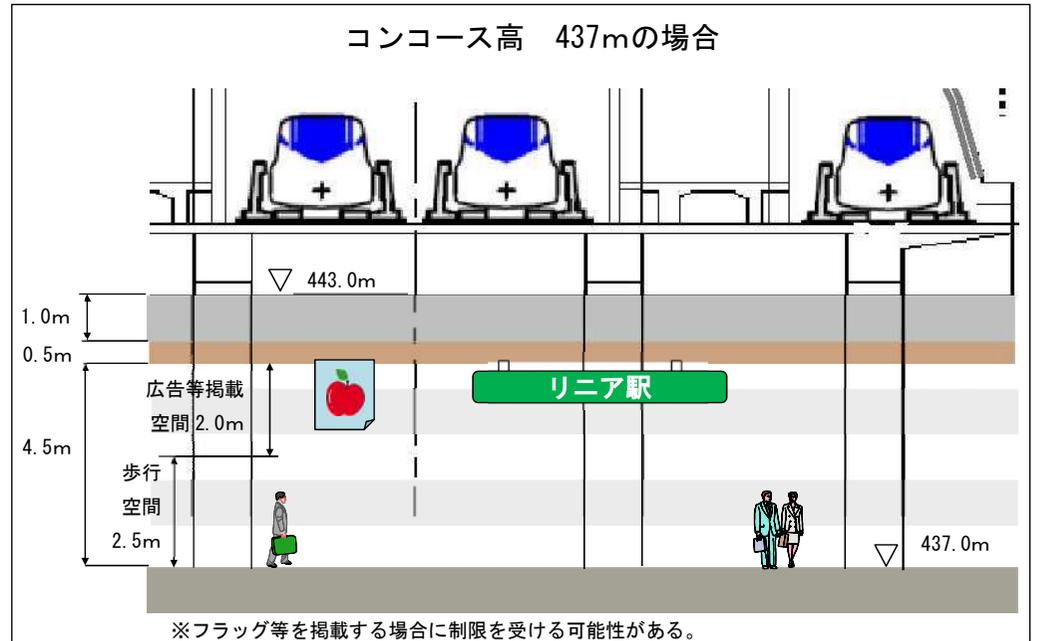
駅舎天井管理空間厚：1.0m 天井修景厚：0.5m

イメージを把握するため、高さ 60cm の案内板と B0 版 (縦 約 1.5m × 横 約 1m) のフラッグ
 広告を想定し表記する。



■高さの設定

道路構造令より
 通路としての機能を確保 : H=2.5m
 一般的な事例より
 広告(フラッグ)等の掲載を考慮した空間の
 確保: H=2.0m~4.0m
 よって、天井までの高さは、4m以上を確保。
 国道 153 号(基準高さ 435.1m)を踏まえた排水
 や広告等掲載空間を勘案すると**標高 436m**
 が理想的であると考えられる。



(1) コンコース事例写真

高さ 約3~4m				
新幹線名	東北新幹線	東北新幹線	東海道新幹線	九州新幹線
駅名	新青森駅	那須塩原駅	新富士駅	筑後船小屋駅
写真				
高さ 約3~4m				
新幹線名	北陸新幹線	東海道新幹線	九州新幹線	北陸新幹線
駅名	長野駅	岐阜羽島駅	新鳥栖駅	飯山駅
写真				

※コンコースの高さは写真からの推定値です。

高さ 約 4m				
新幹線名	北陸新幹線	北陸新幹線	北陸新幹線	東海道新幹線
駅名	黒部宇奈月温泉駅	佐久平駅	上越妙高駅	三河安城駅
写真				
	高さ 約 4.5m	高さ 約 5m	高さ 約 5.5m	高さ 約 4~5.5m
新幹線名	九州新幹線	北陸新幹線	東北新幹線	東海道新幹線
駅名	熊本駅	新高岡駅	新青森駅	三河安城駅
写真				

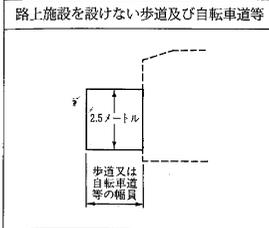
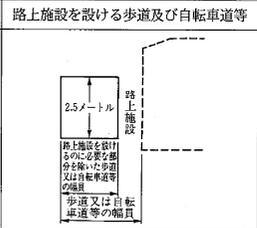
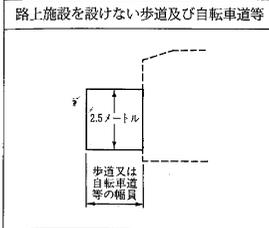
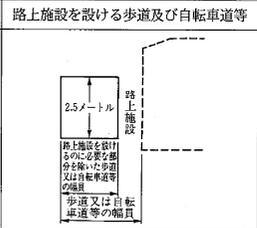
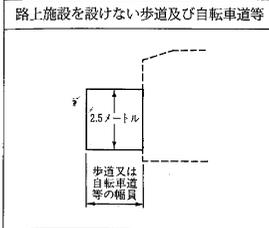
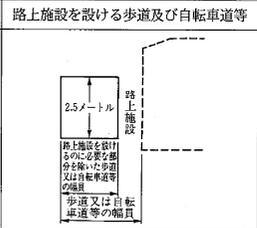
※コンコースの高さは写真からの推定値です。

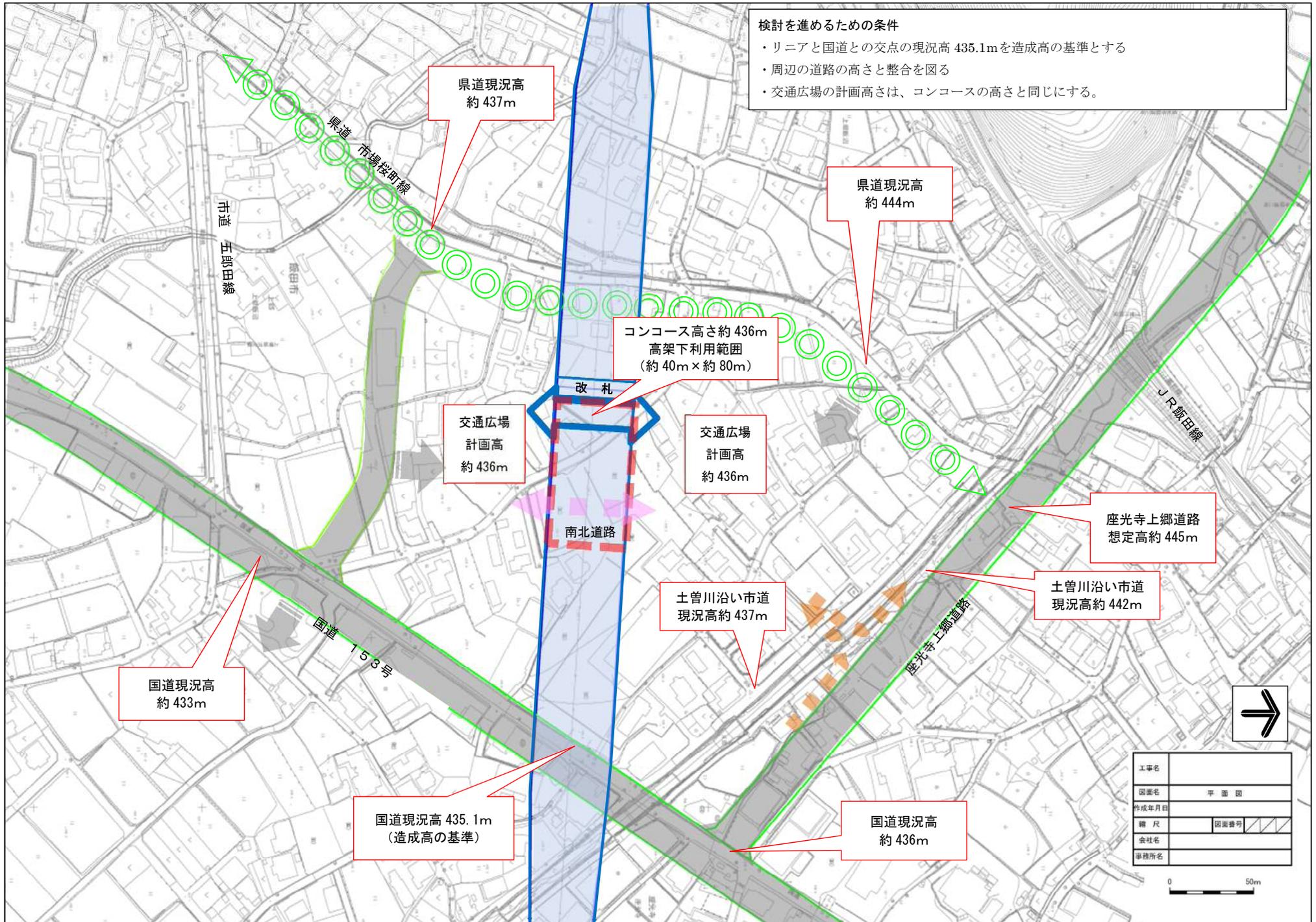
(2) 駅広告等事例写真

新幹線名	秋田新幹線	東横線	北陸新幹線	北陸新幹線
駅名	秋田駅	渋谷駅	上越妙高駅	長野駅
写真	横断幕 (高さ 約 60 c m)	フラッグ広告 (B 0 版 1030×1456)	案内施設 (高さ 約 60 c m)	フラッグ広告 (約 3m×約 2m)
		 東急OOH HPより		

(3) 天井高の決定に際し参考となる基準

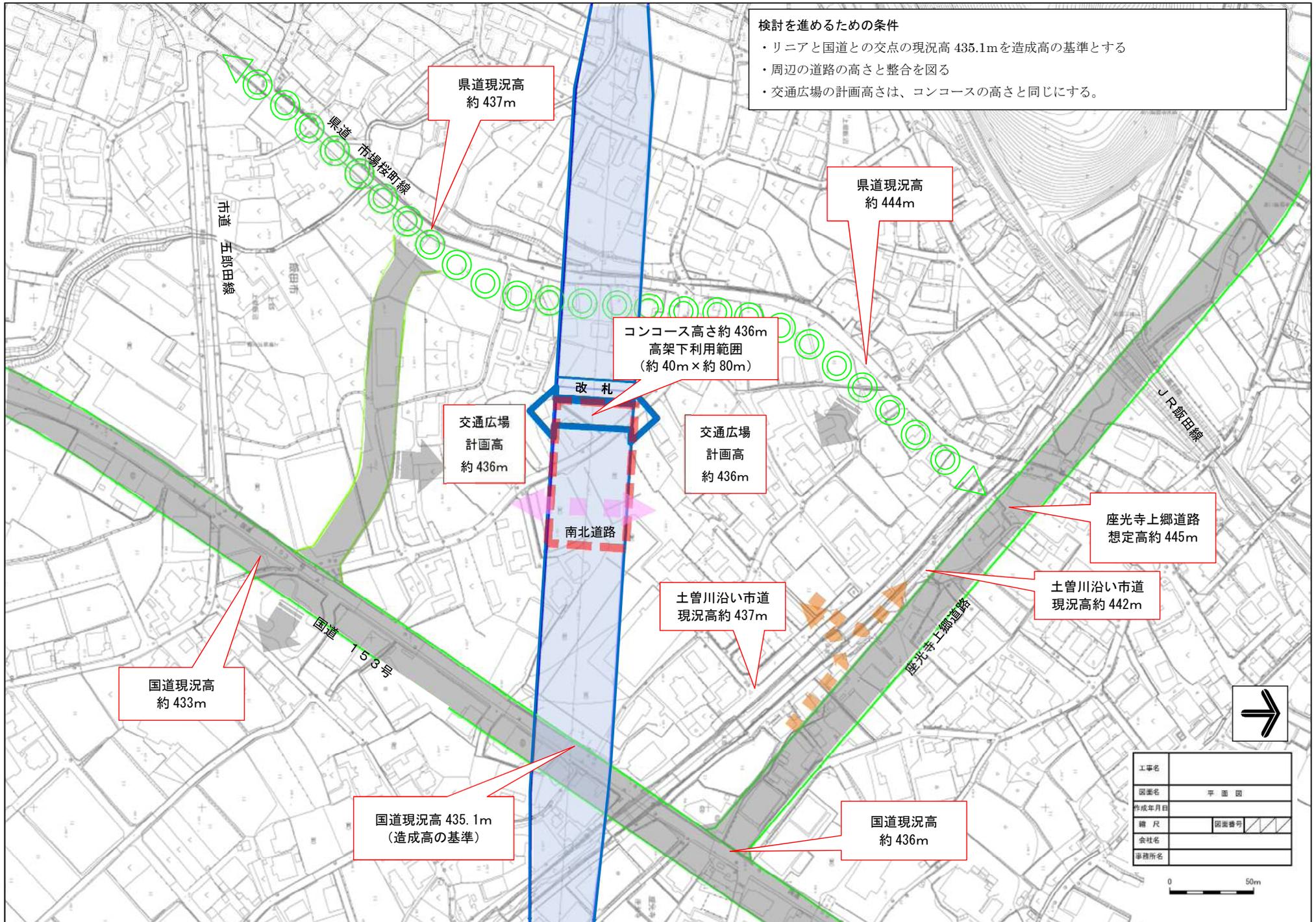
建築基準法施行令 (抜粋)
<p>(地下街)</p> <p>第二百二十八条の三 地下街の各構えは、次の各号に該当する地下道に二メートル以上接しなければならない。ただし、公衆便所、公衆電話所その他これらに類するものにあつては、その接する長さを二メートル未満とすることができる。</p> <p>二 幅員五メートル以上、天井までの高さ三メートル以上で、かつ、段及び八分の一をこえる勾配の傾斜路を有しないこと。</p>

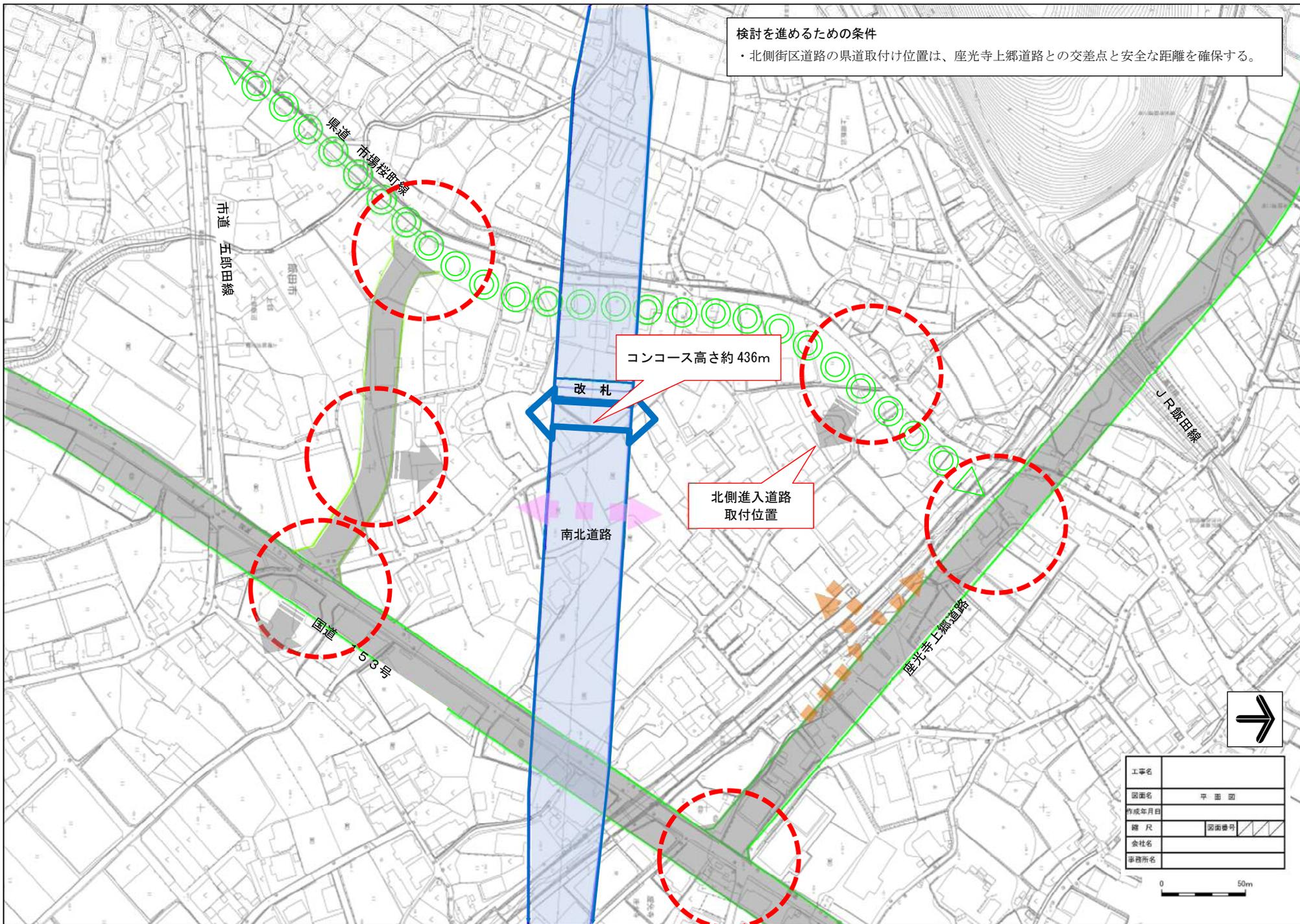
道路構造令 (抜粋)				
<p>(建築限界)</p> <p>第十二条 建築限界は、車道にあつては第一図、歩道及び自転車道又は自転車歩行者道 (以下「自転車道等」という。) にあつては第二図に示すところによるものとする。</p> <p>第2図</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>路上施設を設けない歩道及び自転車道等</th> <th>路上施設を設ける歩道及び自転車道等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	路上施設を設けない歩道及び自転車道等	路上施設を設ける歩道及び自転車道等		
路上施設を設けない歩道及び自転車道等	路上施設を設ける歩道及び自転車道等			
				



工事名	
図面名	平面図
作成年月日	
縮尺	図面番号
会社名	
業務所名	







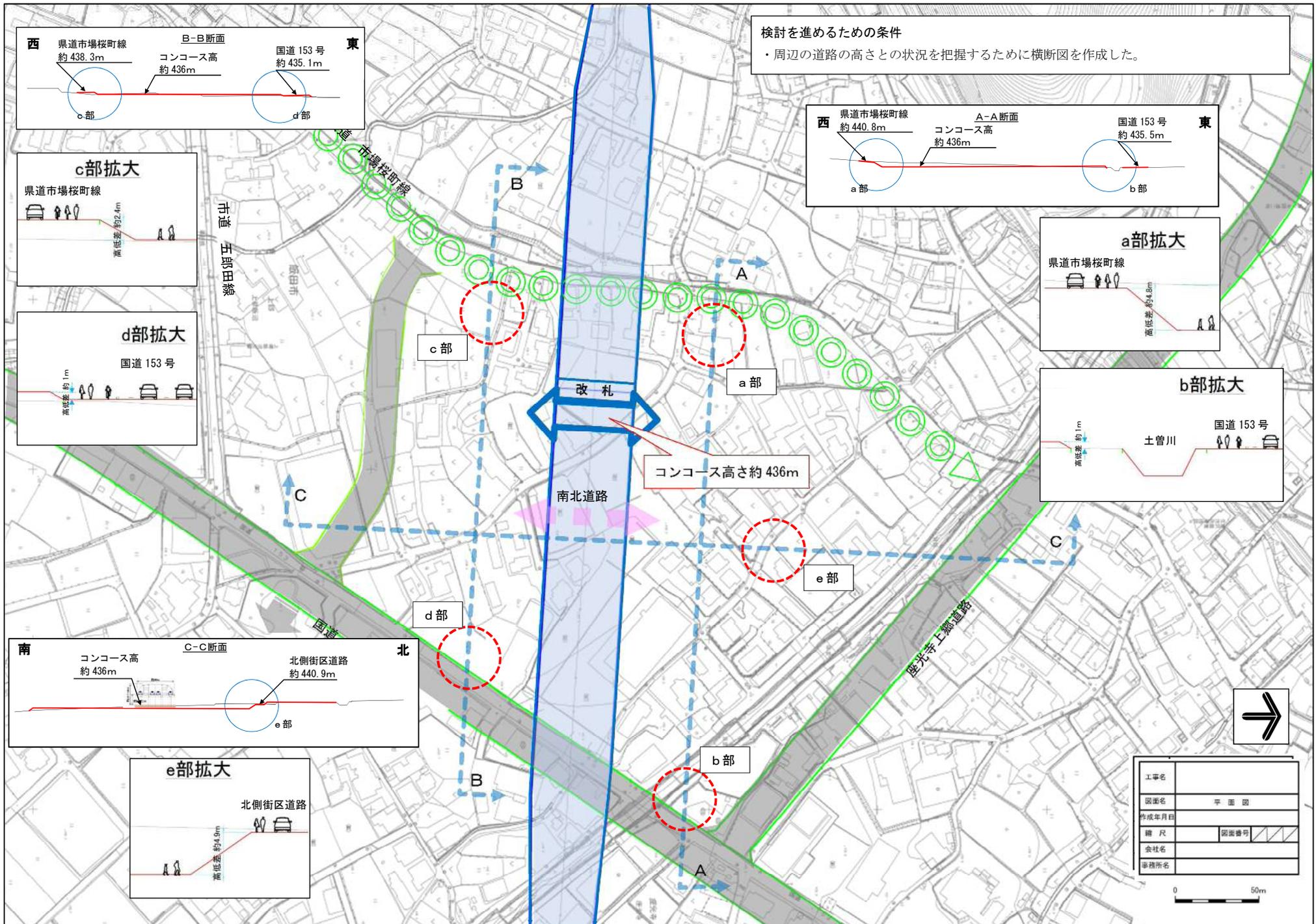
検討を進めるための条件
 ・北側街区道路の県道取付け位置は、座光寺上郷道路との交差点と安全な距離を確保する。

コンコース高さ約436m

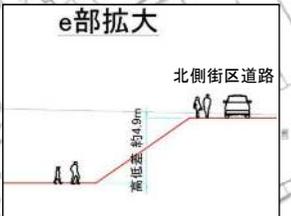
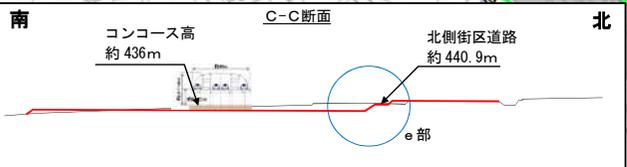
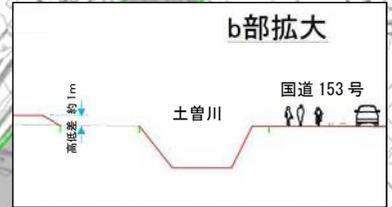
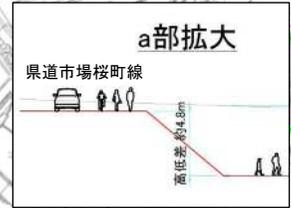
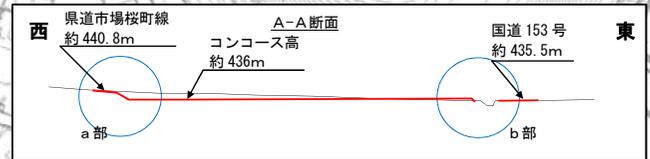
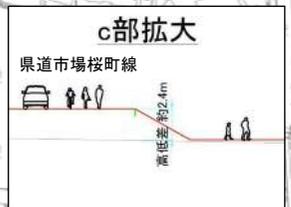
北側進入道路
取付位置

工事名	
図面名	平面図
作成年月日	
縮尺	図面番号
会社名	
事務所名	

0 50m

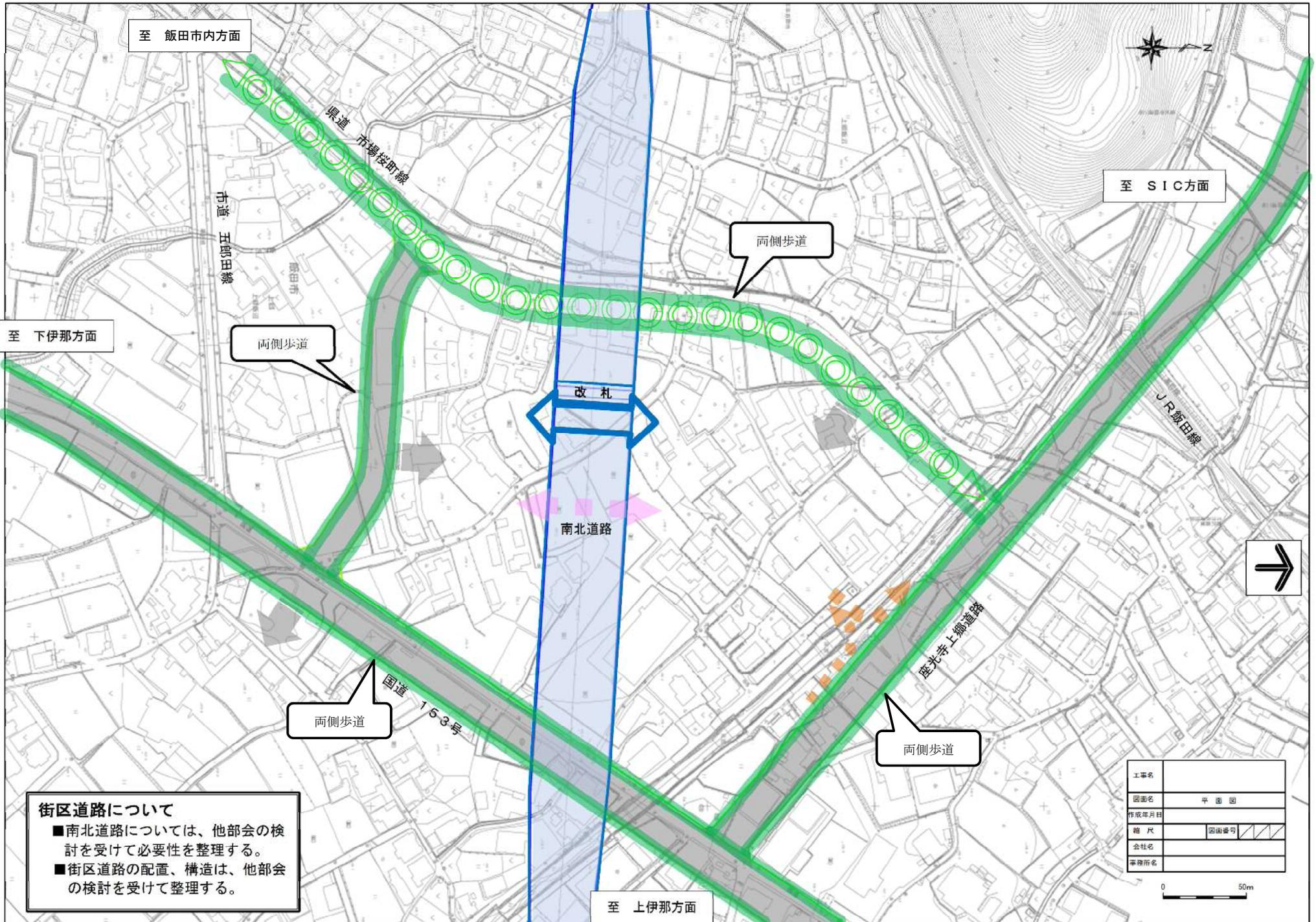


検討を進めるための条件
 ・周辺の道路の高さとの状況を把握するために横断面を作成した。



工事名	
図面名	平面図
作成年月日	
縮尺	図面番号
会社名	
事務所名	





至 下伊那方面

至 飯田市内方面

至 SIC方面

至 上伊那方面

両側歩道

両側歩道

両側歩道

両側歩道

街区道路について

- 南北道路については、他部会の検討を受けて必要性を整理する。
- 街区道路の配置、構造は、他部会の検討を受けて整理する。

工事名	
図面名	平面図
作成年月日	
縮尺	図面番号
会社名	
業務所名	

0 50m

第3回魅力発信部会の内容（要旨）

1 説明報告内容

（1）第4回リニア駅周辺整備検討会議における協議内容の報告

- ①第3回リニア駅周辺整備検討会議、トランジットハブ・道路ネットワーク部会、魅力発信部会の開催状況について確認
- ②今後のスケジュールについて、第Ⅱ四半期に開催予定の第7回検討会議には部会として魅力発信施設に備えたい機能についてのまとめを報告し、その後、アイデア募集に寄せられたアイデアを踏まえたうえで再度検討し、第Ⅲ四半期に開催予定の第8回検討会議に最終的な検討結果として報告することを確認

（2）新幹線駅周辺の魅力発信施設の事例について確認

- ①新幹線駅周辺の魅力発信施設の事例について説明
- ②参考とすべき内容についての確認

（3）魅力発信施設等に関する提案書について確認

- ①各委員から提出された提案書のまとめについて説明
- ②魅力発信施設の整備計画に盛り込む必要がある方針1に関する備えるべき機能について確認

（4）リニア駅及びその周辺の整備・まちづくりに関するアイデア募集について確認

- ①リニア駅及びその周辺の整備・まちづくりに関するアイデア募集の内容について説明
- ②魅力発信部会としては、内容を限定せず広くアイデアを募集することを確認

2 主な意見

- ・駅周辺施設の規模はどの程度を想定しているのか。木古内の規模をイメージすればよいのか。
→ 駐車場規模750台分を見込んでいるがこれらを除いたおよそ3.5haの中に魅力発信施設や広場などを配置していくことになる。
- ・大都市においては、駅舎に土産物屋のような施設が付属している形が多い。糸魚川あたりは独特な取り組み事例ではないか。
- ・部会にはミッションがあるのだが、検討範囲が広がってきている。また、整備計画をつくる過程が見えてこない。
- ・観光案内機能、観光資源を磨いたうえでそれらを発信する機能は当然必要となってくる。交流・体験では、地域団体・住民も参画する形で物販や飲食も含めた機能を持たせるべきである。
- ・伊那谷らしさは何であるのか悩んでいたが、提案の中にある「信州・伊那谷を感じる」これがキーワードではないか。魅力発信施設で何を発信するのかはこれに集約されていると思われる。
- ・駅周辺に全てが集結するのではなく、ここが起点となって各地域へ足を運んでもらえるような施設としたい。実際に来ることによって発見できる、来ないと分からない情報を提供・発信したい。
- ・リニア駅近くの旧飯田工業高校跡地に産業センターの移転を計画してく中で、新しい機能として産業を中心とした情報発信、体験、物販、飲食といったものを考えている。時期としては、リニア開通前となるわけなので、リニア開通に向けて必要なものについての検討をすすめているところである。

- 提案の内容が、魅力発信施設が備える機能と駅舎が備える機能とが混在している。魅力については、オール信州、伊那谷、南信州で考え方が違うので切り口を分けて検討する必要がある。また、観光、ビジネス、交流（二地域居住など）目的ごとによる魅力発信が必要ではないか。
- 駅は駅本来の機能を充実させるべき。対象やエリア、展開の段階による機能ごとに検討を進めることが必要ではないか。

3 その他

- 提出された提案については、事務局で再度、整理したうえで次回部会の開催前に各委員に送付し、次回の第4回魅力発信部会において意見交換する。
- 次回部会は、第6回検討会議前の5月中旬から下旬で調整する。

魅力発信施設等に関する提案(リニア駅周辺整備基本構想 基本方針1)のまとめ

	長野県 信州首都圏総合活動拠点 上伊那地方事務所 下伊那地方事務所 信州・長野県観光協会	上伊那広域連合	伊那市	駒ヶ根市	駒ヶ根観光協会
観光案内機能	○広域観光を推進するためのワンストップ機能 ・広域観光案内、二次交通の案内、体験プログラムの予約・受付	○二次交通の案内機能	○周遊プランの提案機能 ・周遊プラン、見どころ、食べどころを提案できるデジタルサイネージ ・コンシェルジュ、パンフレット配置	○観光情報発信機能	○広域観光情報の提供機能
情報発信機能		○県内全域の観光情報の発信機能	○海外へPRできる情報発信機能 ・エリアの魅力を海外へ発信、来訪提案	○文化・歴史発信機能	○伝統芸能・文化を大型スクリーンで紹介
体験・交流・イベント機能	○観光客と地域住民との交流の場 ・再来訪につながる、観光客との交流による伝統芸能・イベントの開催 ・観光事業者だけでなく地域団体や住民が参画		○多目的イベントへの対応機能 ・体験教室、物販、各種相談会など各団体がイベントを開催できる設備や備品の設置	○イベント広場機能	
物販機能		○道の駅的な施設、県内の広域的な農産物や物産の販売	○季節感ある地元食材販売機能 ・旬の食材の販売、調理方法の紹介、実演	○名物・特産品販売機能 ○各地のミニアンテナショップ機能	○名産品・特産品販売機能
飲食店機能			○地域食を堪能できる機能 ・リニアバレー構想エリアのご当地食、ご当地スイーツ	○郷土料理飲食機能	○郷土料理提供機能 ・一週間単位等で交代する郷土料理レストラン
その他		○工業製品、工場見学ができる企業の紹介 ○移住・定住に関する情報発信	○二地域居住の提案機能 ・身近な田舎をキーに二地域居住の提案	○工業製品等紹介機能 ○移住相談・職業相談 ○足湯・温泉機能 ○簡易宿泊機能	○農林水産物・工業製品紹介機能 ○移住相談・紹介 ○テーマパーク機能 ・飯田線のレールパークを開設 ○災害時緊急避難受入施設機能

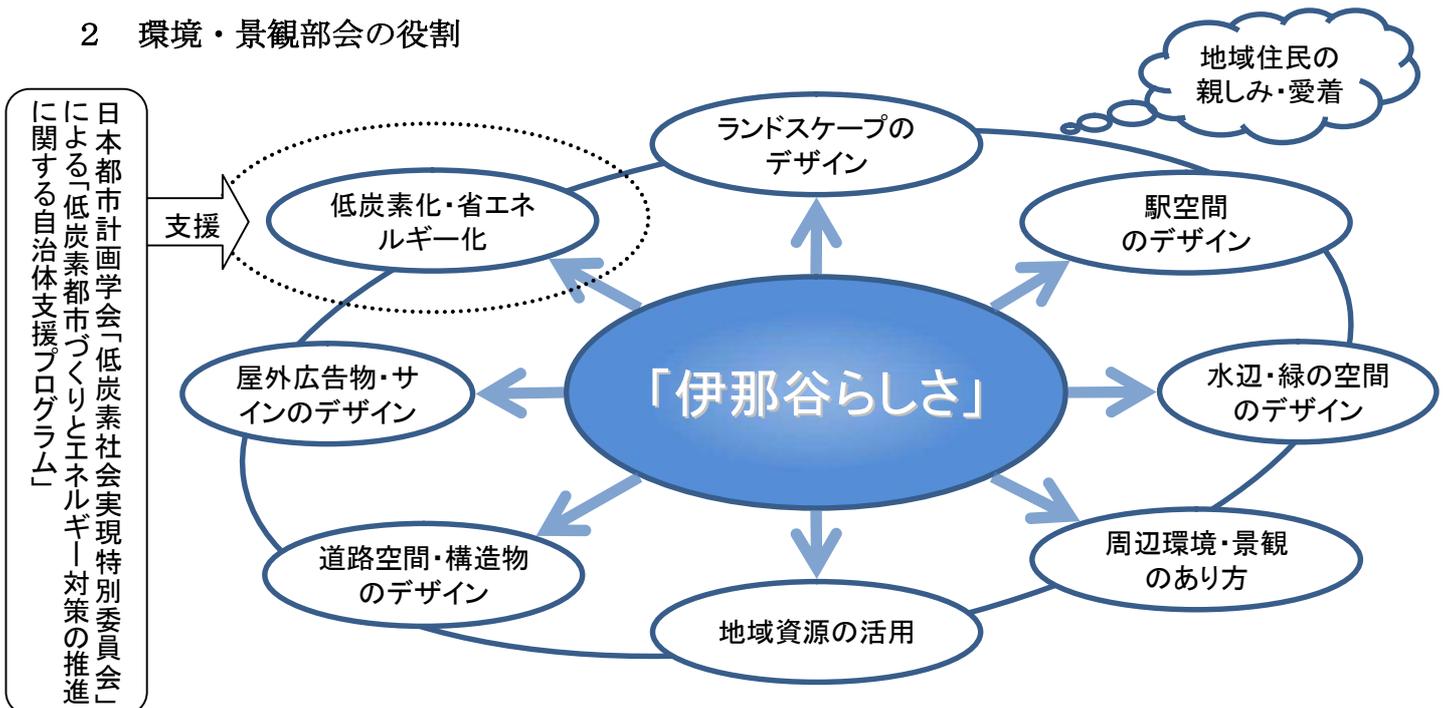
	南信州観光公社	飯田商工会議所	駒ヶ根商工会議所	商工連上伊那支部	商工連南信事務所	JAみなみ信州
観光案内機能	○観光案内機能(飯田市、下伊那郡及び上伊那・木曾) ○観光ガイド、各種案内人の手配	○フリーWi-Fi機能	○広域観光に関する情報提供 ・人、パンフによる観光案内、インターネット環境の整備	○基本情報、モノ、サービス、拠点の検索機能や常駐案内人の設置 ○インバウンドを意識した言語対応		○地域総合案内所機能
情報発信機能		○一年を通じてトータル的に魅力発信できる機能		○田舎暮らしのよさをアピールする映像、音楽、モノ、データの展示 ○地域の今を紹介する表示板(自然環境や社会環境)		○「信州・伊那谷を感じる」駅空間機能 ○地域総合広報機能
体験・交流・イベント機能	○地域情報見本市機能	○イベントに対応できる施設の整備(電気・ガス・上下水道)	○地元住民のための有益な情報提供の場(例えば道の駅的施設)	○触れる、食する、感じる、体験する場の提供		○「東京にいちばん近い田舎」(都市と農村の交流) ・長野県駅を起点とした広がり ○地元住民が楽しみ交流できる駅空間
物販機能		○道の駅的な利用	○地域を代表する食べ物や土産品などが提供できる場	○名産品(地域固有や都会固有)の物販		○「食と農を大切にする緑の伊那谷広場」(食の安全安心) ○付加価値のある地域ブランドの集積・発信
飲食店機能	○一服機能(飲食店併設も含めて)					
その他	○ビジネスサポート機能 ・打合せスペース、ツアー受入れフォロー、営業・広報等	○交番機能	○電車、バス、タクシー、レンタカー、レンタサイクルなど様々な交通手段の整備	○地元住民向けの首都圏・中京圏等の情報提供及びアクセス案内 ○地域に関係するクイズ(景品付き、ロボットが対応)	○定住・移住・iターン・Uターンに関するライフスタイルの提案 ・人材確保、創業、企業誘致に結びつける	○高度なトランジットハブ機能 ・地域への広がりアクセス機能向上

環境・景観部会の設置について

1 設置の目的

リニア長野県駅を利用する乗降客が「伊那谷らしさ」を感じるとともに、周辺住民の皆さんが親しみを感じ愛着を持てるような駅空間のデザインや周辺環境・景観の在り方、その実現手法等について検討する。併せて、リニア駅周辺における再生可能エネルギーの利用やゼロエミッション、低炭素化等の取組のあり方について検討する。

2 環境・景観部会の役割



- ・「伊那谷らしさ」とは何か、それを表現するためには具体的に何をなすべきか等について検討する。
- ・リニア駅舎及び整備区域内のデザインコンセプトをまとめ、環境と景観のデザインについて検討する。
- ・整備区域内における低炭素化・省エネルギー化に関する方針や「伊那谷らしさ」を特徴づける材料、地元産木材、建築様式・工法、外観などの環境と景観に関する事項について検討する。
- ・整備区域及びさらにその周辺において「伊那谷らしさ」を実現する景観規制手法・基準等の方向性について検討する。
- ・検討にあたっては、整備区域周辺の生活環境に配慮するとともに、「トランジットハブ・道路ネットワーク部会」による駐車場、交通広場、道路等の機能、規模、配置等の検討状況、「魅力発信部会」による魅力発信施設の内容の検討状況、「交流人口拡大部会」による交流人口拡大の方策と連携・整合を図る。
- ・低炭素化・省エネルギー化の分野に関しては、公益社団法人日本都市計画学会「低炭素社会実現特別委員会」による「低炭素都市づくりとエネルギー対策の推進に関する自治体支援プログラム」の研究会において検討し、その状況を随時部会へ報告する。

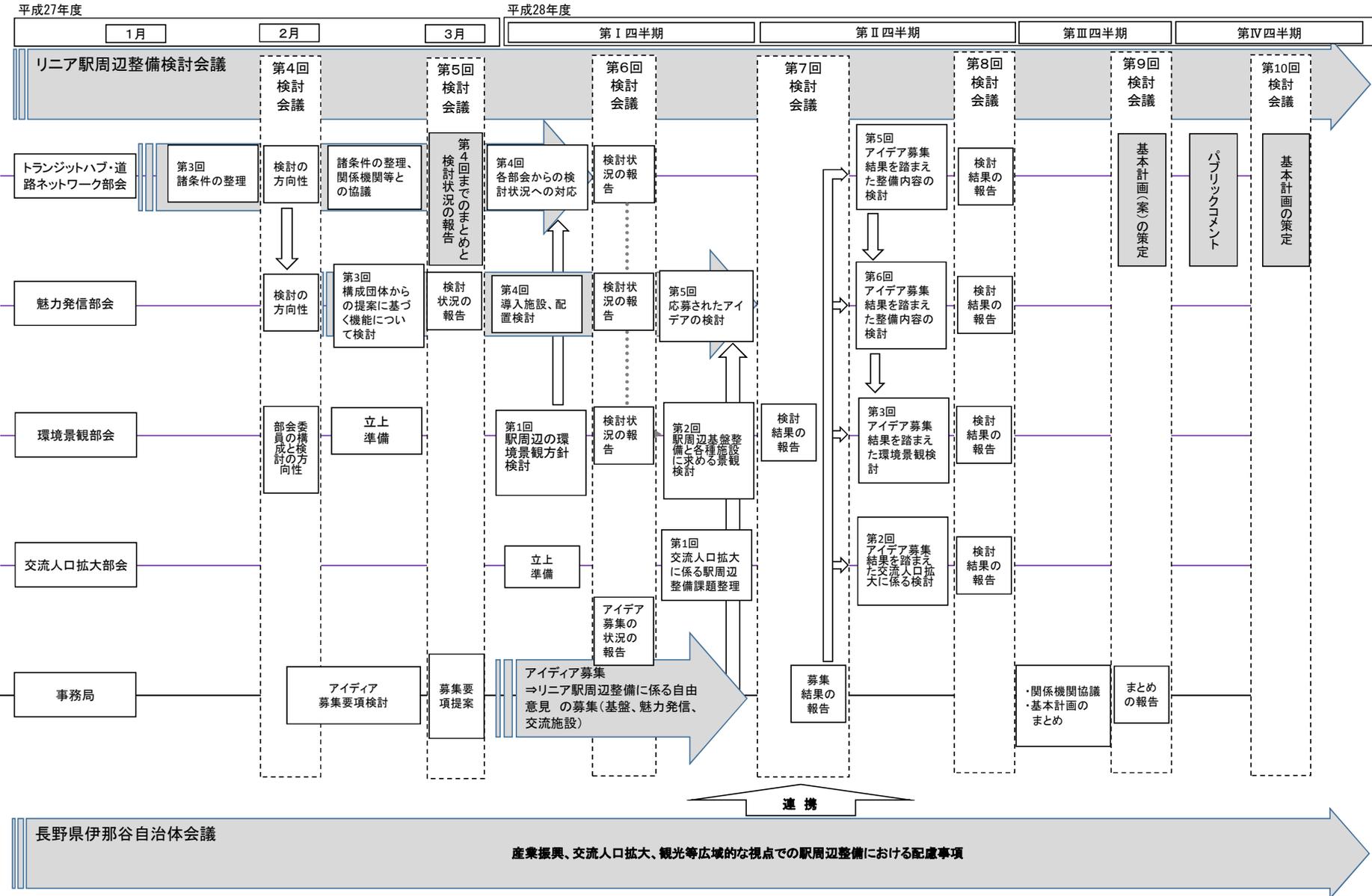
3 委員構成（案）

組織団体名	役職名	氏名	備考
一般社団法人長野県建築士会飯伊支部			
一般社団法人長野県建築士事務所協会飯伊支部			
公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部			
長野県下伊那地方事務所建築課			
長野県下伊那地方事務所環境課			
長野県飯田建設事務所整備課			
飯伊森林組合			
飯伊広告塗装事業協同組合			
特定非営利活動法人 南信州おひさま進歩			
三風の会			
学識経験			

事務局	
飯田市リニア推進部	
飯田市市民協働環境部	市民協働環境部長
	環境モデル都市推進課長
飯田市建設部	建設部長
	地域計画課長

平成27年度～28年度検討工程

資料 6



リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関する アイデア募集について（案）

飯田市では、2027年(平成39年)のリニア中央新幹線開業に向け、リニア駅周辺整備検討会議を設置して、テーマごとに部会による専門的な検討を進め、平成28年度内にリニア駅周辺整備基本計画(基本平面計画)を策定する予定です。

これまでの検討の結果から、リニア駅整備予定地の地理的な条件、計画上での条件が整理され、現況地形の高低差や、道路計画上の制約は別紙「リニア駅整備予定地の現況」の通りです。

つきましては、下記のとおり基本計画策定の参考とするため、リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア募集を行います。

1 目的

- ・居住地、年齢、専門性、個人・グループ等を問わず、広くリニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデアを聴く機会を設け、検討の参考とします。
- ・提出された様々なアイデアについて各部会で検討し、部会内での議論で具体化を図ります。

2 募集内容等

- ・自由な発想でリニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデアを募集します。
- ・文字、図面、絵、画像等、表現方法は問いません（ただし、図面・絵の場合は説明を記入）。
- ・リニア駅周辺整備基本構想での目指す姿(基本的な理念)「信州・伊那谷の個性で^{グローバル}世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口^{ゲートウェイ}」を踏まえたアイデアを募集します。

～例～

- ・地理的条件を踏まえた上での、施設(機能)配置のアイデア
- ・「伊那谷らしさ」とは何か ・「伊那谷らしさ」を表現するアイデア
- ・リニア駅周辺にあってほしい機能 ・リニア駅に降り立ったときのイメージ
- ・リニア駅周辺で行っていると楽しいと感じる活動、イベント
- ・来訪者へのおもてなしのアイデア ・環境に配慮したまちづくりのアイデア
- ・使いやすい駅とは ・駅利用者を増加させるアイデア 等

3 提出されたアイデアの取扱い

- ・提出されたアイデアは検討の対象とし、各部会において内容の評価や検討等を行います。
- ・各部会での検討結果は、リニア駅周辺整備検討会議へ報告し、部会間でイメージの共有を図るとともに更に検討・議論を重ね、まとめます。
- ・提出されたアイデアは公表しますが、個別に回答はしません。なお、公表する際に匿名を希望される方は氏名公開欄の□にレ印をご記入ください。また図面・絵などの著作物は返却しません。なお、著作権は飯田市に帰属するものとします。

4 応募の方法

(1) 募集期間

平成 28 年 4 月 15 日～平成 28 年 5 月 27 日（必着）

(2) アイデアの問い合わせ及び提出先

〒395-8501 長野県飯田市大久保町 2534 番地

飯田市リニア推進部 linear@city.iida.nagano.jp

TEL 0265 (22) 5361

(3) アイデアの提出方法

提出様式「リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア提案書」

に必要事項を記載の上、電子メール、郵送 又は 持参の方法により提出

※電子メールでの応募の場合は件名に「リニア駅周辺整備に係るアイデア募集について」と記載してください。

(4) アイデアの提出様式

A 4 用紙 2 枚（両面可）又は A 3 用紙 1 枚（両面可）まで

(5) 参考資料（詳しくは、下記のホームページ）

1) 長野県リニア活用基本構想

<http://www.pref.nagano.lg.jp/shinko/kurashi/kotsu/linear/documents/kihonkouso.pdf>

2) リニアバレー構想

<http://www.pref.nagano.lg.jp/shinko/kurashi/kotsu/linear/documents/linervalley.pdf>

3) リニア将来ビジョン

<http://minami.nagano.jp/library/linear-meeting/>

4) リニア駅周辺整備基本構想

5) リニア駅周辺整備検討会議におけるこれまでの検討資料

「リニアのまちづくり・いいだ」<https://www.city.iida.lg.jp/site/iida-linear/>

(提出様式)

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア提案書

提出日 平成 28 年 月 日

このことについて、別紙のとおり提案します。

項 目	記 載 欄
ふりがな	
氏 名	
氏名公開	<input type="checkbox"/> 匿名希望 ※匿名をご希望される場合は□にレ印を記入してください。
性 別	
年 齢	10代未満、10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上 ※該当する世代に○をしてください。
所属機関 所属団体	
住 所	
電話番号	
メールアドレス	

※全項目の記載をお願いします。メールアドレス等、記載することがない項目については、「なし」と記載をお願いします。記載がない場合は、意見として受け付けないことがあります。

【提出先】

○郵送の場合

〒395-8501 長野県飯田市大久保 2534 飯田市リニア推進部リニア整備課あて

○メールの場合

linear@city.iida.nagano.jp

※件名に「リニア駅周辺整備に係るアイデア募集について」と記載してください。

平成 27 年度のまとめ

1)リニア関連計画の整理

長野県リニア活用基本構想

表 3つの広域交流圏の概略

構築	想定地域	ポイント
①伊那谷交流圏構想	【長野県駅の駅勢圏】 上伊那・飯伊地域（伊那谷）	❖長野県駅を利用 ❖リニアを活かし、大都市や世界とつながる地域
②リニア3駅活用交流圏構想	【長野県駅・山梨県駅・岐阜県駅の駅勢圏】 諏訪・木曾・松本地域及び近隣地域（県中央地域）	❖長野県駅・山梨県駅・岐阜県駅の利用が可能 ❖鉄道、道路、空港による多様な移動手段を選択できる地域
③本州中央部広域交流圏構想	【長野県全域】	❖2つの新幹線、高速道路等を基軸として、本州中央部における流動の創出が可能な地域

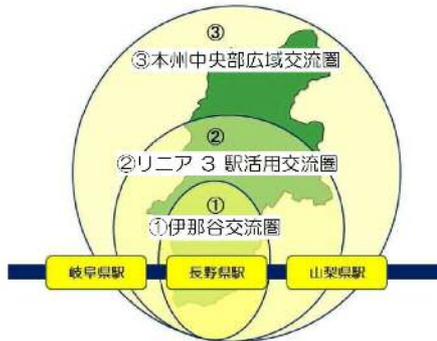


図 3つの広域交流圏のイメージ

表 伊那谷交流圏の基盤整備に関する方針等

項目	方針・取組
魅力ある駅空間の創造	県南の玄関口にふさわしい駅空間の整備
良好なアクセスの確保	高速道路の活用 ①高速道路へのアクセス性向上 ②高速道路と各地域の連携強化（スマートIC含む） ③駅勢圏の拡大に向けた高速道路の整備（三遠南信自動車道含む）
	道路ネットワークの強化（国道153号の整備など）
	JR飯田線の活用 ①JR飯田線との乗換えの利便性確保 ②JR飯田線の利便性向上 ③JR飯田線の活性化

1)リニア関連計画の整理

リニアバレー構想(骨子)

②将来構想

- 1** 国際空港へ1時間でアクセスするグローバル活動拠点 ～世界とつながる～

グローバル産業や研究開発機関、航空産業クラスター、メディカルバイオクラスターといった新たな時代の産業の集積と次世代産業の創出を進める。
- 2** 巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点 ～日本を支える～

首都圏と中京圏の中間に位置し、リニアを活かした時間短縮効果を最大限発揮できる地の利をいかすことで、首都機能や企業の中核機能のバックアップを果たす。
- 3** 高度な都市空間と大自然とが近接した「対流促進圏域」 ～ここで豊かに暮らす～

都市圏への通勤や二地域居住、週末農業など新たなライフスタイルを提案するとともに、豊かにくらすための地域づくりや魅力ある自然環境の保全と景観の形成を進める。
- 4** 世界から人を呼び込む感動フィールド ～ここでふれあう～

インバウンドも含めた広域観光の促進により交流人口を拡大させるため、美しい信州の原風景や文化を活かした広域観光ルートづくりや体験型観光の促進を図る。

1)リニア関連計画の整理

リニア将来ビジョン

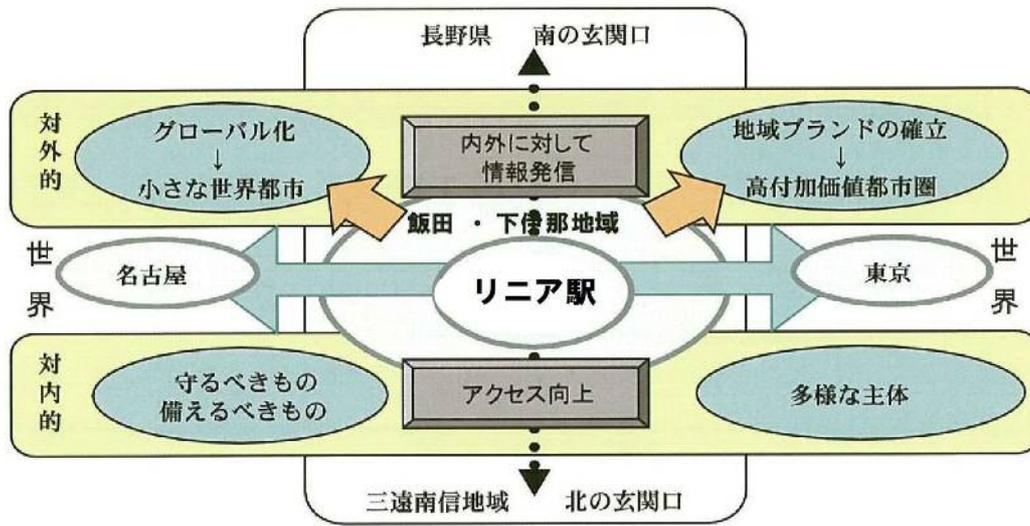


図 将来の地域像

1)リニア関連計画の整理

リニア推進ロードマップ

②ロードマップの考え方

表 3本柱と三つくりの概要

3本柱	開業を見据えて3つの柱を設定し、それぞれに関する取組みをロードマップに記載
三つくり	「柱3：戦略的地域づくり」の具体化に向けては、人材サイクルを実現するため、デザイン思考的アプローチによる「産業」「人」「地域」の三つくりを位置づけ



〈先行する8つの視点〉

図 ロードマップの構成

1)リニア関連計画の整理

飯田市土地利用基本方針

⑤将来都市構造（持続可能な都市構造への転換）

<都市構造の基本的な考え方>

1. 計画に基づく土地利用<対立から共生>
2. 限りある土地の資源<資産価値から社会的価値>
3. 土地の流動化と有効利用<土地の保有から利用>
4. 既存ストックを利活用<整備から利活用>

<拠点集約連携型都市構造の推進>

広域交通拠点	リニア駅及びその周辺区域	⇒	交通の結節点（トランジットハブ）としての機能に特化した整備を推進し、各拠点の機能が相互に高まるよう連携を図る。
地域拠点	各地区の市役所自治振興センターや公民館等のコミュニティ施設が集積された中心部	⇒	行政、教育、文化、福祉、医療、商業などそれぞれの地区に応じた地域機能の集約を図る。
交流拠点	環境、産業、生活等の新たな可能性が期待される天龍峡エコバレー地域	⇒	循環型社会のモデル地区として整備を推進し、自然や景観に配慮した佇まいの創出を図る。
中心拠点	各種業務や行政などの中核機能や特色ある商業や居住等の都市機能が蓄積された中心市街地	⇒	飯田市の顔にふさわしい品格と賑わいのあるまちを創造するため、それら機能の充実を図る

(4) 広域交通拠点の整備等

- ・広域交通拠点は交通の結節点として南信州地域はもとより長野県全体にもその効果が波及されるよう機能の充実を図る
- ・広域交通拠点の周囲に新たな市街地が拡散的に形成されないよう、今ある良好な住環境や優良農用地などの保全に努める。

1)リニア関連計画の整理

リニア駅周辺整備基本構想

基本的な理念

ローカル グローバル
信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、
 ゲートウェイ
世界へ発信する玄関口

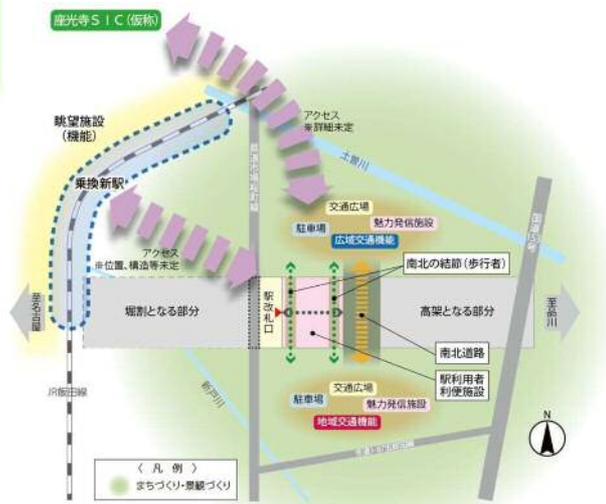
《基本方針1》 来訪者の移動を支援する“高度なトランジットハブ”を形成する

《基本方針2》 駅勢圏の拡大に向け、交通アクセス及びネットワークの強化を進める

《基本方針3》 信州・伊那谷らしさを感じられる景観づくりを進める

《基本方針4》 信州・伊那谷ブランドを強化し、発信する

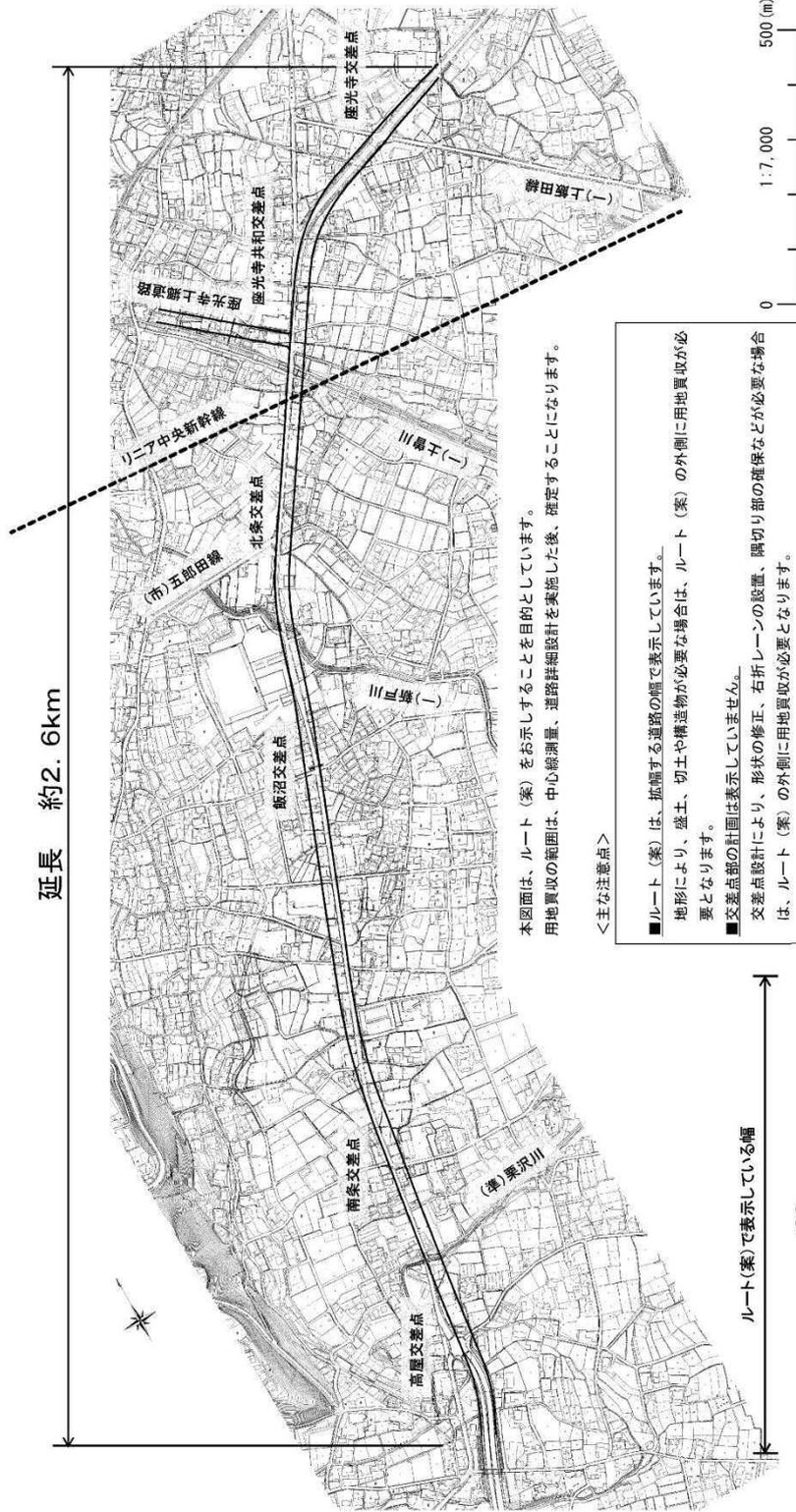
駅周辺の配置イメージ



1) リニア関連計画の整理

リニア関連道路整備 国道153号 飯田北改良 ルート(案)

延長 約2.6km

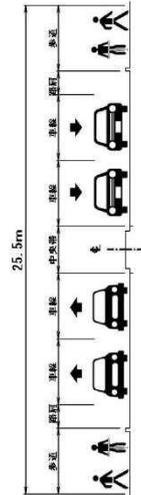


本図面は、ルート(案)をお示しすることを目的としています。
 用地買収の範囲は、中心線測量、道路詳細設計を完了した後、確定することになります。

<主な注意点>

- ルート(案)は、拡幅する道路の幅で表示しています。
 地形により、盛土、切土や構造物が必要な場合は、ルート(案)の外側に用地買収が必要となります。
- 交差点部の計画は表示していません。
 交差点設計により、形状の修正、右折レーンの設置、隅切り部の確保などが必要な場合は、ルート(案)の外側に用地買収が必要となります。
- 横断歩道橋や横断地下道の計画は表示していません。
 歩行者の安全確保の観点から横断歩道橋等の設置が必要な場合は、ルート(案)の外側に用地買収が必要となります。
- 市道、用水路等の付け替えは表示していません。
 圍道の拡幅により付け替えが必要な場合は、ルート(案)の外側で機能回復を図ります。

ルート(案)で表示している幅



1) リニア関連計画の整理

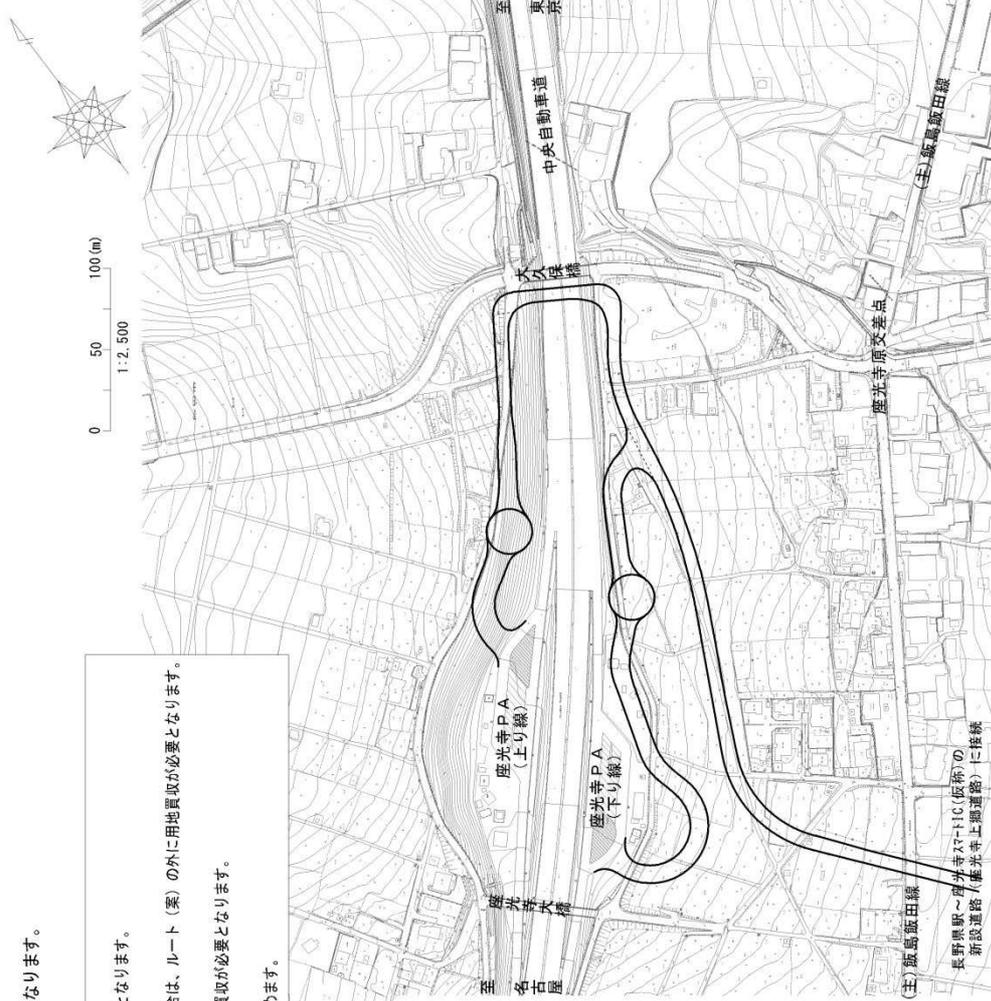
リニア関連道路整備 座光寺スマートIC(仮称)新設 ルート(案)

飯田市建設部

本図面は、ルート(案)をお示しすることを目的としています。
用地買収の範囲は、中心線測量・道路詳細設計を実施した後、確定することになります。

<主な注意事項>

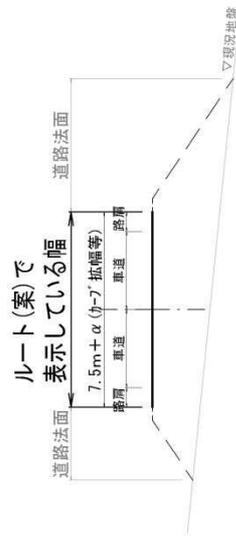
- 「ルート(案)」は、新設するスマートICや市道の幅で表示しています。
地形により、盛土や土留構造物が必要な場合は、ルート(案)の外に用地買収が必要となります。
- 交差点部の計画は表示していません。
- 交差点設計により、形状の修正、右折レーンの設置、隔切り部の確保などが必要な場合は、ルート(案)の外に用地買収が必要となります。
- 歩道の計画は表示していません。
- 関係する市道の付け替え等は表示していません。
- 関係する市道の付け替え等については、今後地元の皆様と協議しながら、検討を進めます。



○標準横断面(自動車専用道)

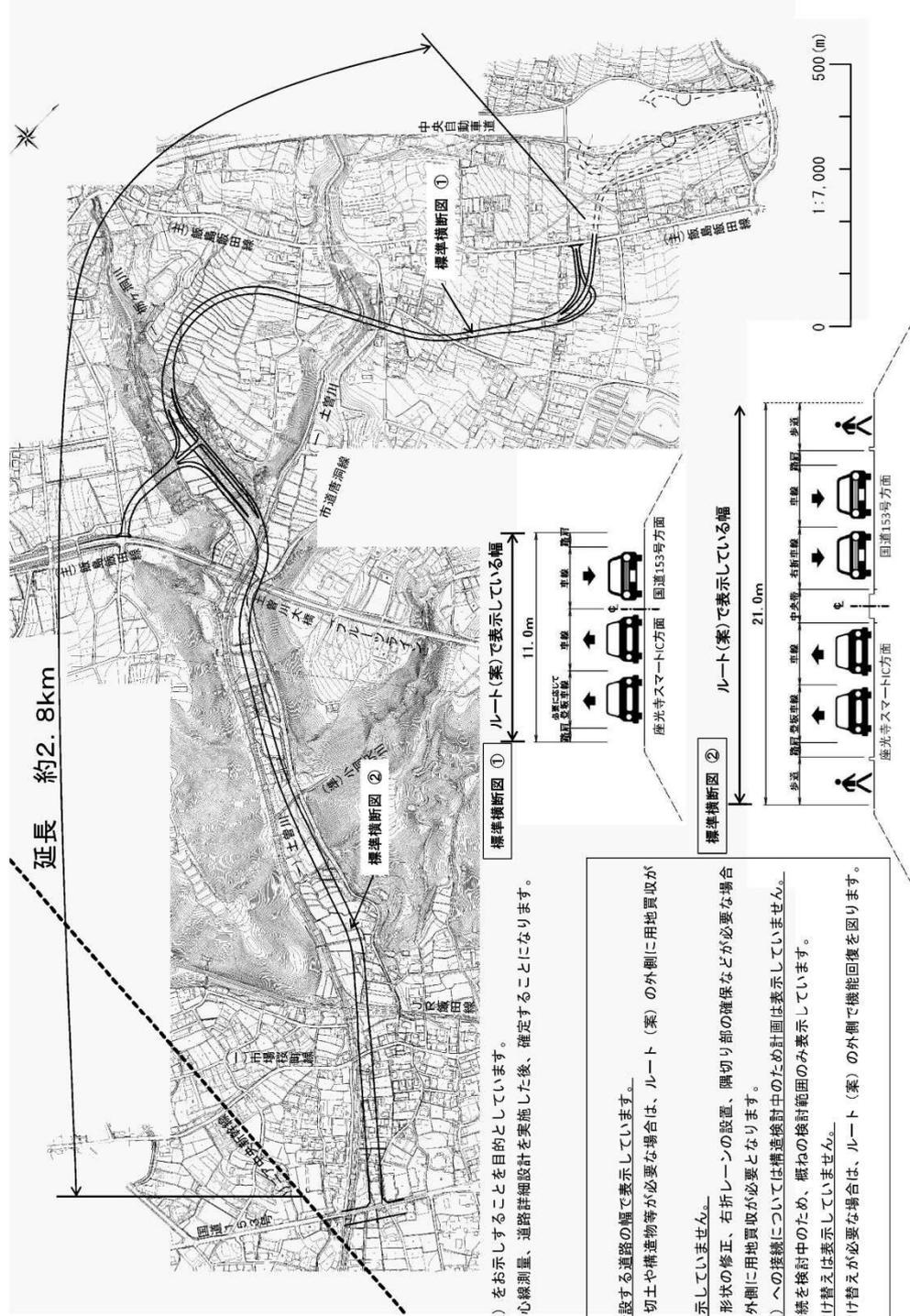


○標準横断面(一般道)



1) リニア関連計画の整理

リニア関連道路整備 長野県駅～座光寺スマートIC(仮称)の新設道路(座光寺上郷道路)ルート(案)



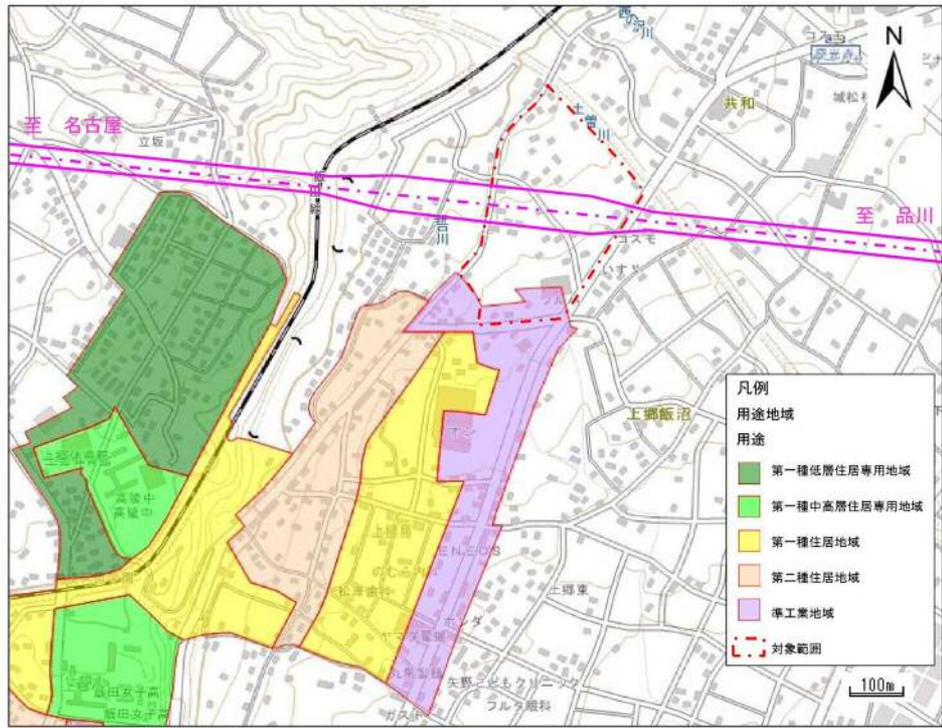
本図面は、ルート(案)をお示しすることを目的としています。
用地買収の範囲は、中心線測量、道路詳細設計を実施した後、確定することになります。

<主な注意点>

- ルート(案)は、新設する道路の幅で表示しています。
地形により、盛土、切土や構造物等が必要な場合は、ルート(案)の外側に用地買収が必要となります。
- 交差点部の計画は表示していません。
交差点設計により、形状の修正、右折レーンの設置、隅切り部の確保などが必要な場合は、ルート(案)の外側に用地買収が必要となります。
- 飯島飯田線(上県道)への接続については構想検討中のため、概ねの検討範囲のみ表示しています。
ランブ形式による接続を検討中のため、概ねの検討範囲のみ表示しています。
- 市道、用水路等の付け替えは表示していません。
道路の新設により付け替えが必要な場合は、ルート(案)の外側で機能回復を図ります。

2) 現況調査

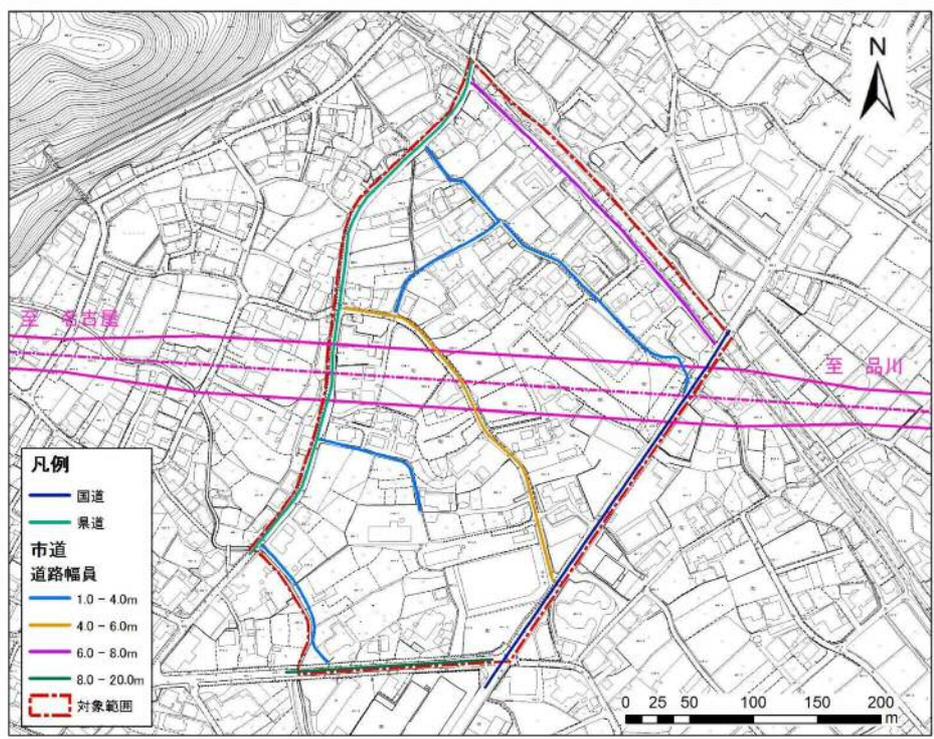
用途地域



■用途地域図

2) 現況調査

道路

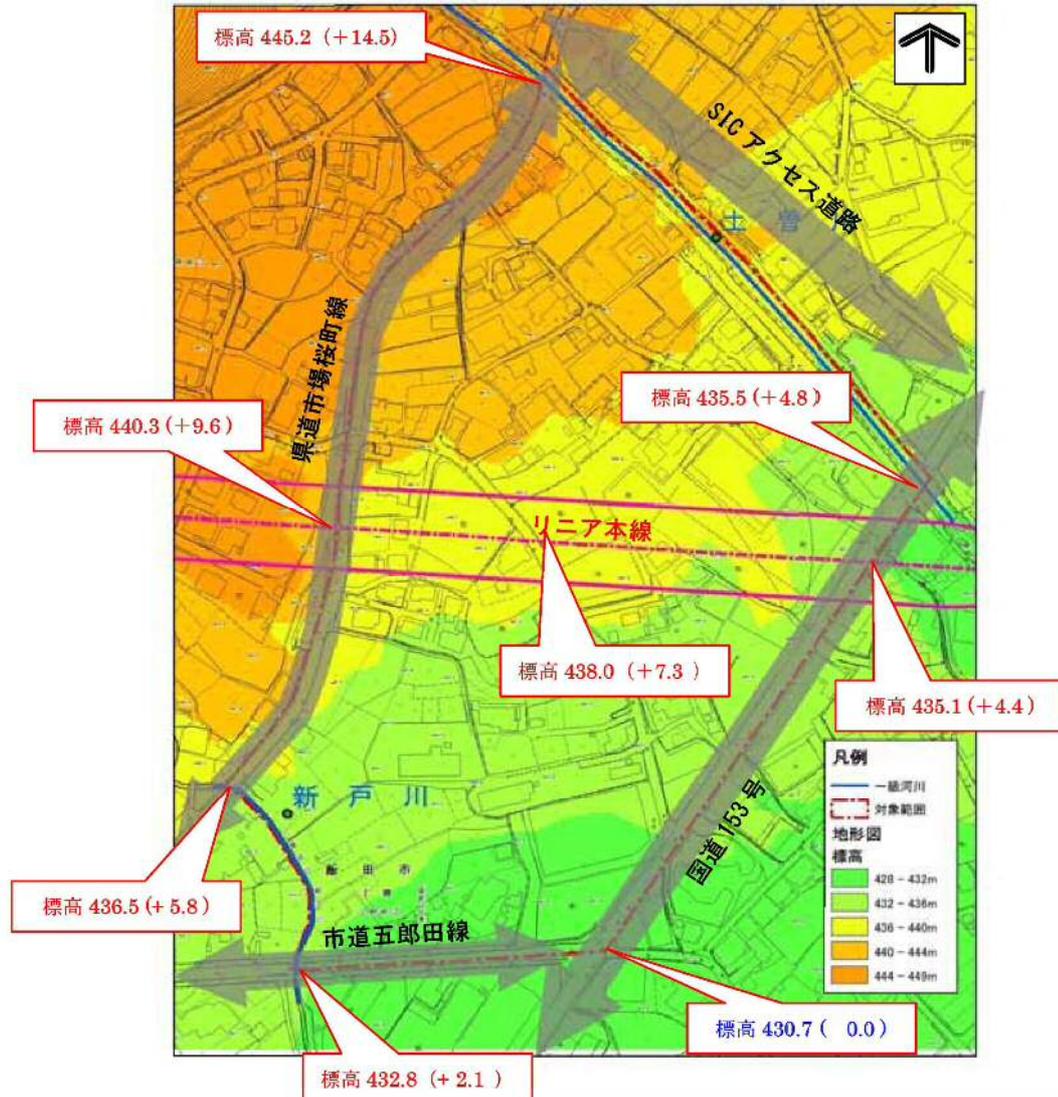


■幅員別道路現況図

2)現況調査

地理的条件の整理

1 現況の地形



《 地形の特徴 》

国道 153 号と市道五郎田線の交差点(北条交差点)から北方向、県道市場桜町線と土曾川交差点付近へ向かって 14.5m上っている。また、国道 153 号と土曾川との交差点付近から県道市場桜町線と土曾川との交差点付近に向かって 9.7m上っている。

全体として、南から北に向かって上っており、さらに東から西に向かって上っている。

3)基本計画の検討

導入機能・施設に関する基本的な考え方

交通結節機能

- 道路網、地域公共交通との十分な連携
- 駐車場などの整備
- ソフト面においても機能強化

機能	交通手段	交通結節機能	備考
交通結節 (乗継)機能	バス (高速・路線)	バス乗降場、転回場	
		バス駐車場(待機場)	
	タクシー	タクシー乗降場	
		タクシー待機場	
	自家用車	乗降場(K&R)、短時間待機(停車)場	
		自家用車駐車場(P&R)	
鉄道(在来線)	JR飯田線新駅、新駅とのアクセス歩行者空間		
その他	観光バス乗降場、待機場	民営事業との役割整理が必要	
	レンタカー配車、受け渡し空間	民営事業との役割整理が必要	
アクセス強化機能	一般道路系	駅周辺(国道153号等)の道路空間拡充	
	高速道路系	スマートI.CおよびスマートI.C.連絡道路	
	乗合交通手段	中心市街地や地域拠点、主要観光施設等とのアクセスに資するバスサービス等	
	その他	レンタサイクルサービス、カーシェアリングシステム、パーソナルモビリティ等	将来的な技術進展を見据えて導入を検討

3)基本計画の検討

導入機能・施設に関する基本的な考え方

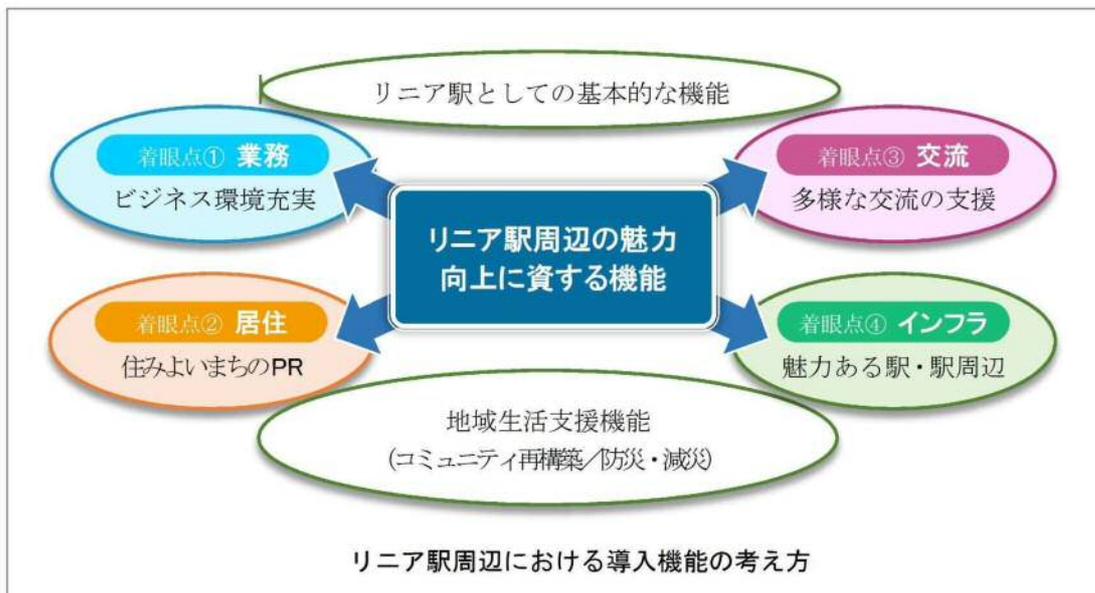
リニア駅周辺の導入機能

基本的な機能

魅力向上に資する機能

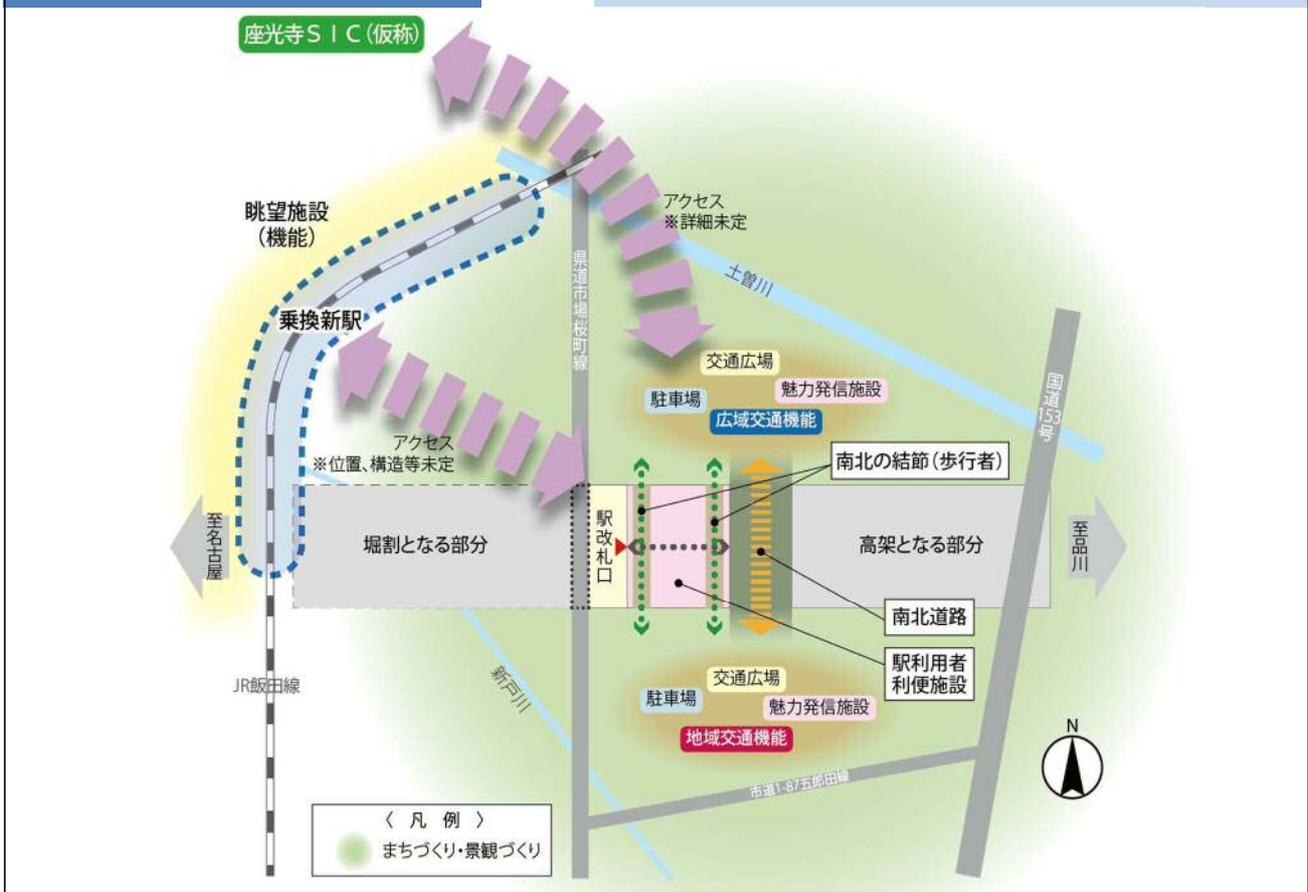
住み続けられるための機能

地域アピール機能



リニア駅周辺の導入機能

着眼点	目指すべき姿	駅前の果たす役割	
リニア駅としての基本的な機能	・リニア駅利用者が待ち時間等を快適かつストレスなく楽しめるための、駅や駅周辺の有する 基本的な機能の充実	リニア駅利用者の「やすらぎ空間」づくり	
+			
魅力向上に周辺を資する機能	着眼点① 業務	・リニア中央新幹線を活かした新たな ビジネス環境創出 や ビジネス支援機能強化	飯田での「ビジネス活動の最前線」づくり
	着眼点② 居住	・居住地としての魅力をリニア駅周辺で味わえる「 住みよい飯田市 」PR機能	飯田に「住んでみたい」と思わせる空間づくり
	着眼点③ 交流	・ 交流人口拡大に資する機能導入	市民と来訪者の「交流拠点」づくり
	着眼点④ インフラ	・リニア駅の 駅機能強化 ・リニア駅周辺における、 景観にも配慮したゆとりある歩行者空間形成	飯田の新たな「顔」づくり
+			
リニア駅整備を契機とした 地域生活支援機能	・ 地域コミュニティの維持や再構築に資する機能	南北の新たな「連携」づくり	
	・ 発災時にリニア利用客のみならず市民等が利用できる防災・減災機能強化	市民と来訪者の「安心拠点」づくり	



3)基本計画の検討

基本構想における駅周辺の配置イメージ

①交通関係機能・施設

機能/施設	面積(m ²)
バス関連施設	310
高速バス関連施設	230
タクシー関連施設	130
自家用車(送迎)関連施設	160
歩道設置	2,100
車道設置	520
環境空間	1,470
P&R駐車場(※1)	22,500
計(※2)	27,420

②今後規模を検討する機能・施設

機能/施設	面積(m ²)
交通広場周辺道路(街区道路)	規模を検討
駅利用者利便施設	
魅力発信施設	
計	—

③駅に近接して導入するか検討を要する機能・施設

機能/施設	面積(m ²)
観光バス待機空間	駅近接配置の 必要性和規模を 検討
交流施設(※3)	
公園	
計	—

(①+②+③) - 高架下利用面積 = 駅周辺整備に必要な面積

(駅周辺整備事業に伴い用地買収を行う面積)

(※1)平面で整備した場合の面積(多層化によって縮小)

(※2)国の指針に基づき算定した数値。なお、構造物や施設の配置など具体的な検討に伴い、変動する可能性がある。

(※3)イベントスペース、コミュニティ施設等、人の交流に関する施設

3)基本計画の検討

検討する導入機能・施設の一覧表

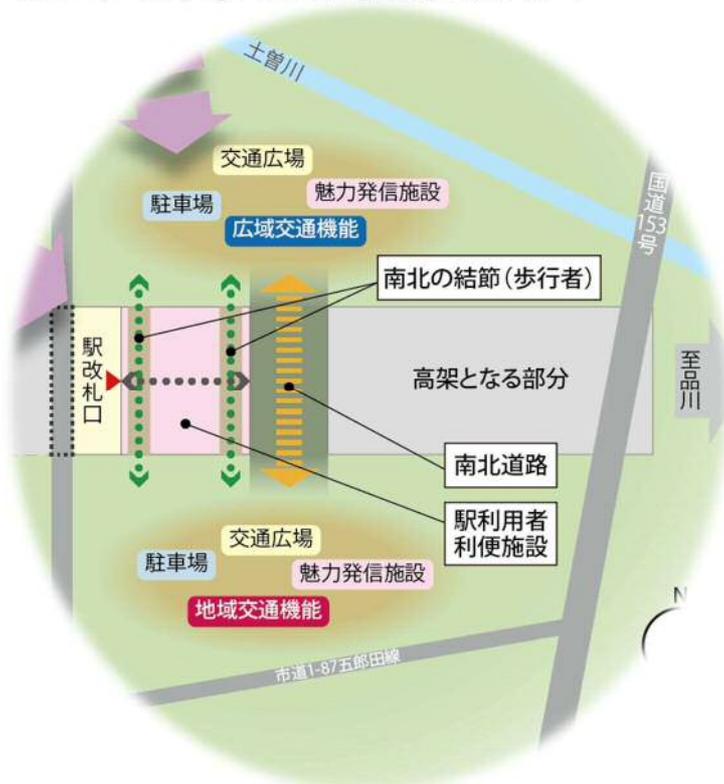
交通広場

基本構想で整理されている機能/施設	基本計画における機能/施設の再整理	配置場所
バス関連施設	乗車バース	交通広場内
	降車バース	交通広場内
	待機場	交通広場内
高速バス関連施設	乗車バース	交通広場内
	降車バース	交通広場内
	待機場	交通広場内
	駐車場	交通広場外
タクシー関連施設	乗車バース	交通広場内
	降車バース	交通広場内
	タクシープール	交通広場内
自家用車(送迎)関連施設	乗車バース	交通広場内
	降車バース	交通広場内
	福祉バース	交通広場内
	短時間駐車場(一般)	交通広場内、交通広場外
	短時間駐車場(福祉)	交通広場内、交通広場外
歩道設置	歩道設置	交通広場内
車道設置	車道設置	交通広場内
環境空間	環境空間	交通広場内

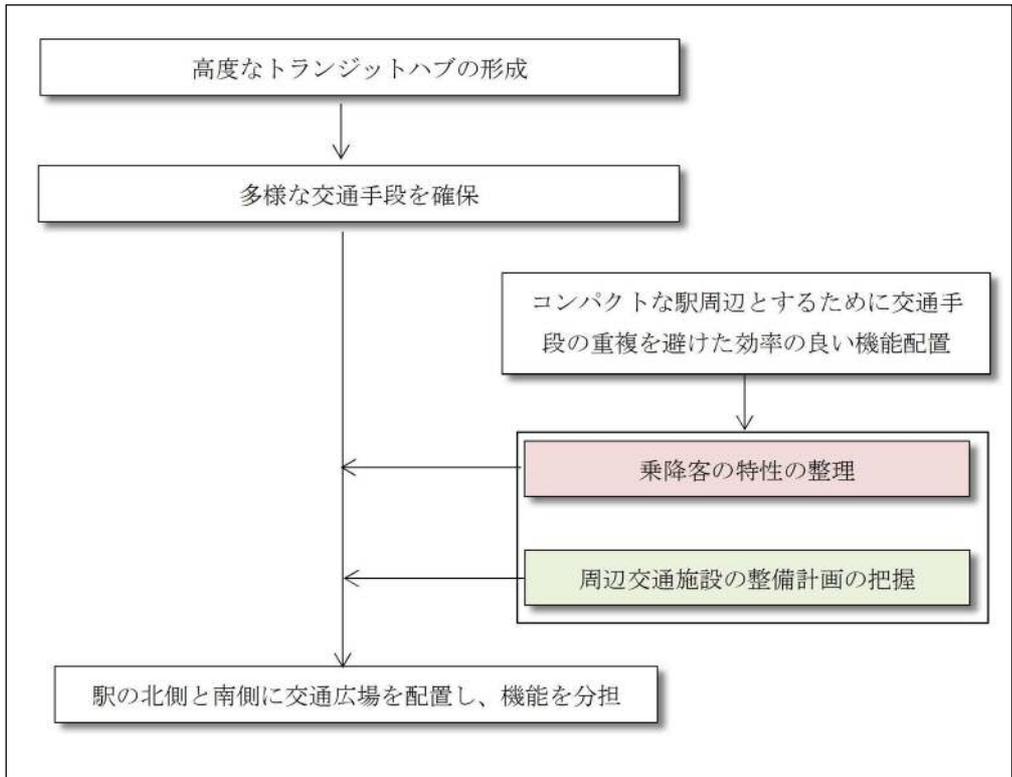
駅周辺

基本構想で整理されている機能/施設	基本計画における機能/施設の再整理	配置場所
P&R 駐車場	平面駐車場	交通広場内、交通広場外、高架下
	立体駐車場	交通広場外
交通広場周辺道路 (街区道路)	車道	交通広場外
	歩道	交通広場外
	植栽帯	交通広場外
駅利用者利便施設	駅利用者利便施設	交通広場外、高架下
魅力発信施設	魅力発信施設	交通広場外
観光バス待機空間	観光バスパーズ	交通広場内
	観光バス待機場	交通広場内又は交通広場外
	観光バス駐車場	交通広場外
交流施設	交流施設	交通広場外
公園	公園	交通広場外
—	天候バリアフリー	各施設

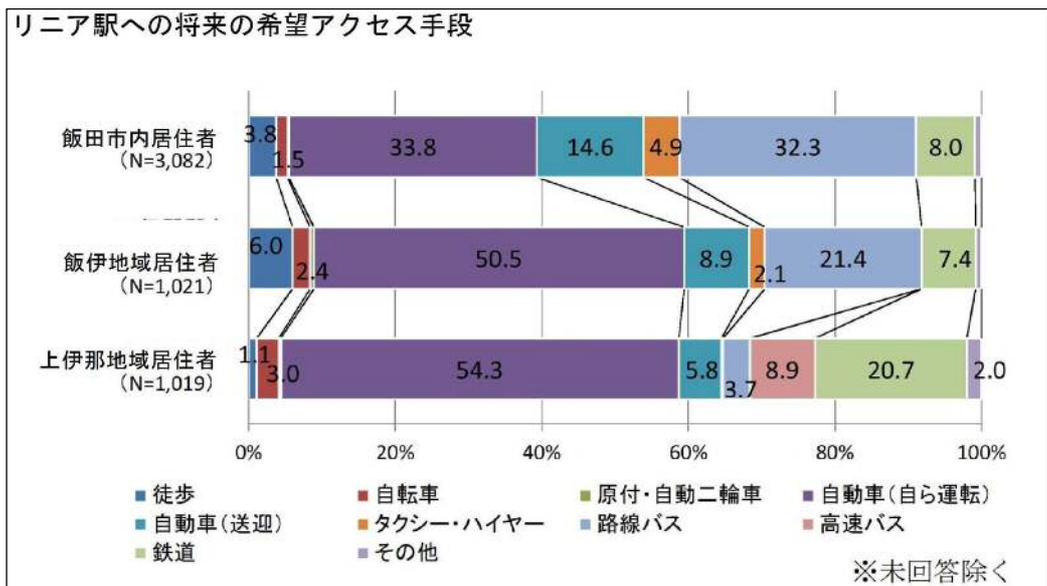
基本構想における南北の機能分担



南北の機能分担の検討方法

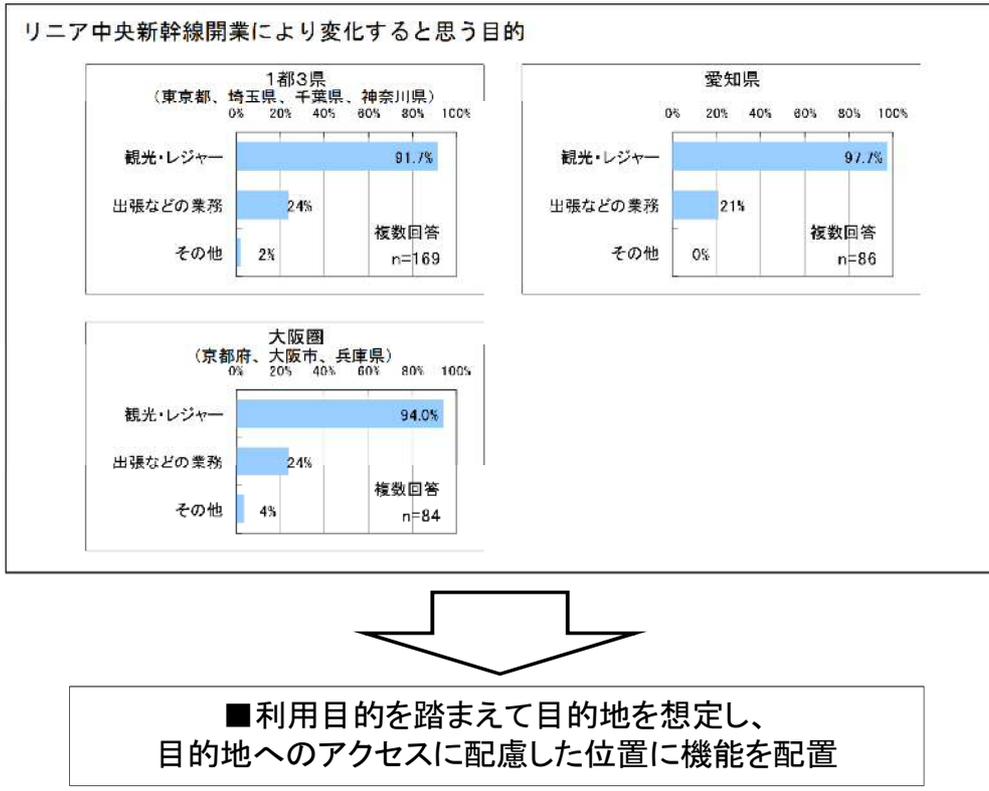


駅勢圏居住者の交通手段

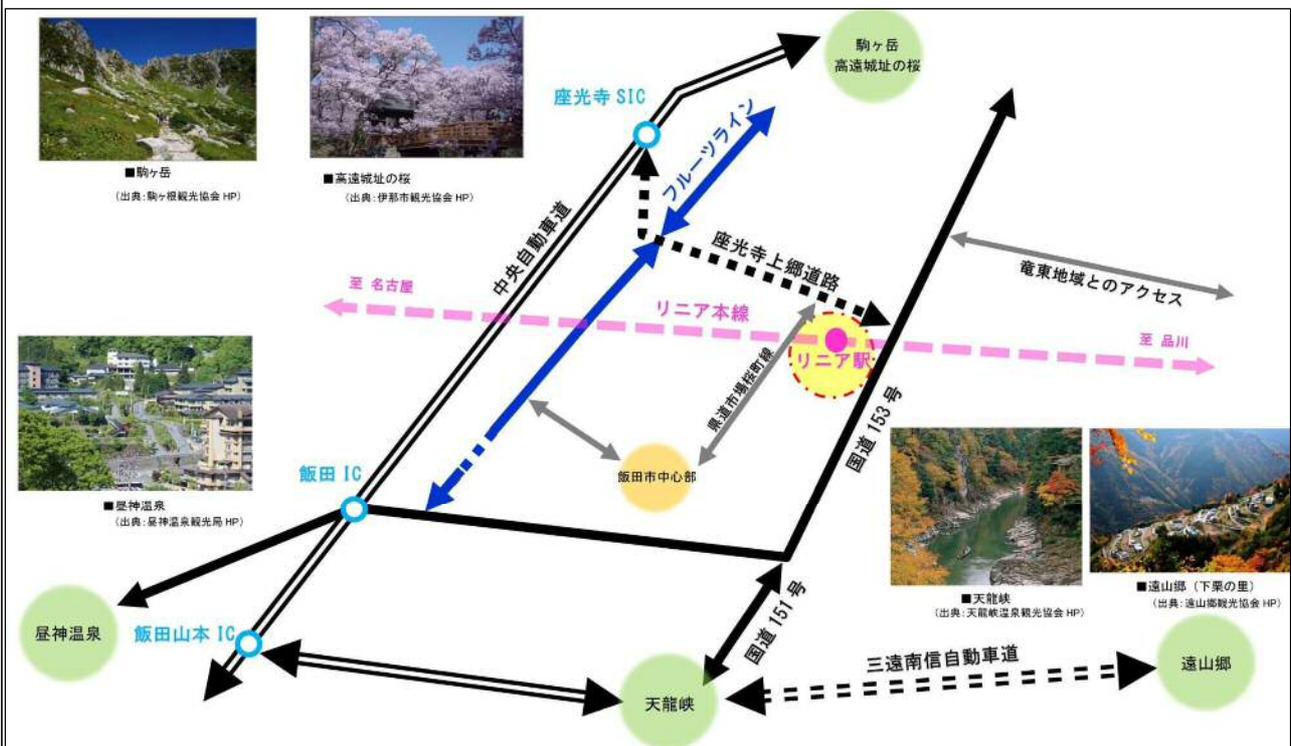


■居住地から円滑にアクセスできる位置に機能を配置

来訪者の目的



周辺の計画道路網



駅勢圏居住者のアクセス

パーク&ライド駐車場に駐車して、リニア駅より乗車	
内容	模式図
<p>自動車を自ら運転し、リニア駅を利用する場合は、パーク&ライド駐車場を利用することが想定できる。</p>	

駅勢圏居住者のアクセス

高速バスを利用して、リニア駅より乗車	
内容	模式図
<p>高速バスの利用者は、座光寺 SIC を利用したアクセスが想定できる。</p>	

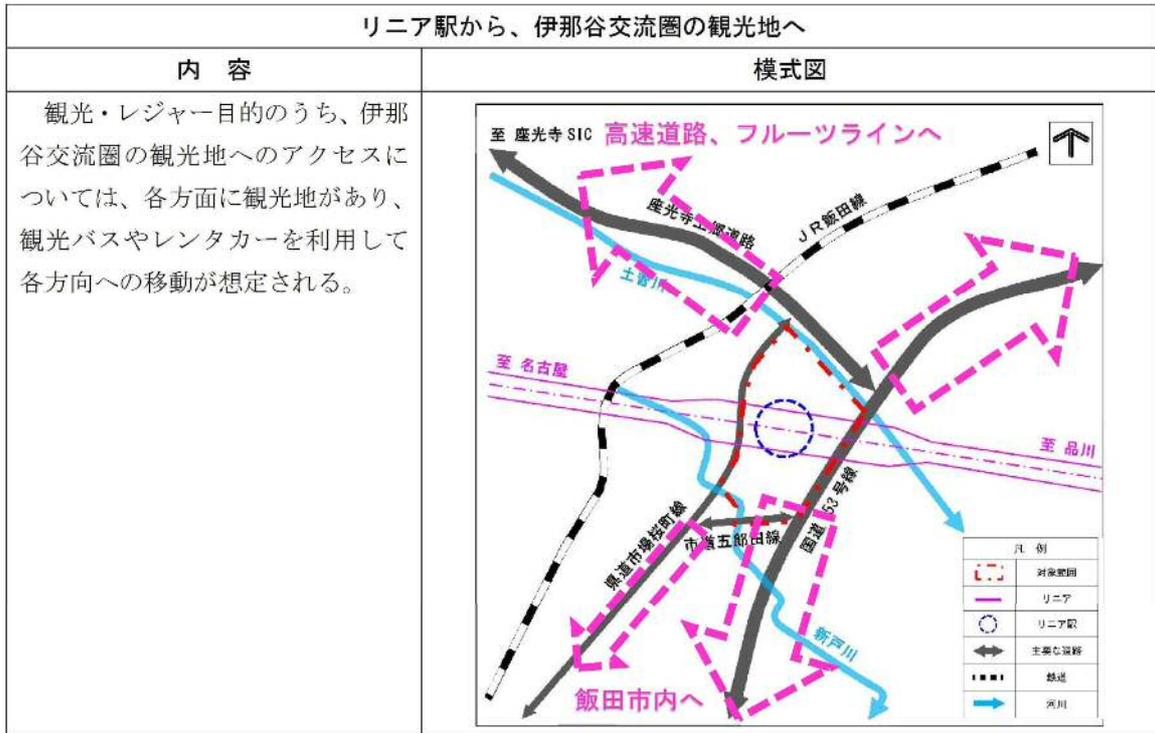
駅勢圏居住者のアクセス

路線バスやタクシー、自家用車の送迎により、リニア駅より乗車	
内容	模式図
<p>路線バス、タクシー等の利用、自家用車の送迎は、飯田市及び飯伊地域等の近距離居住者の割合が多いと考えられる。</p>	

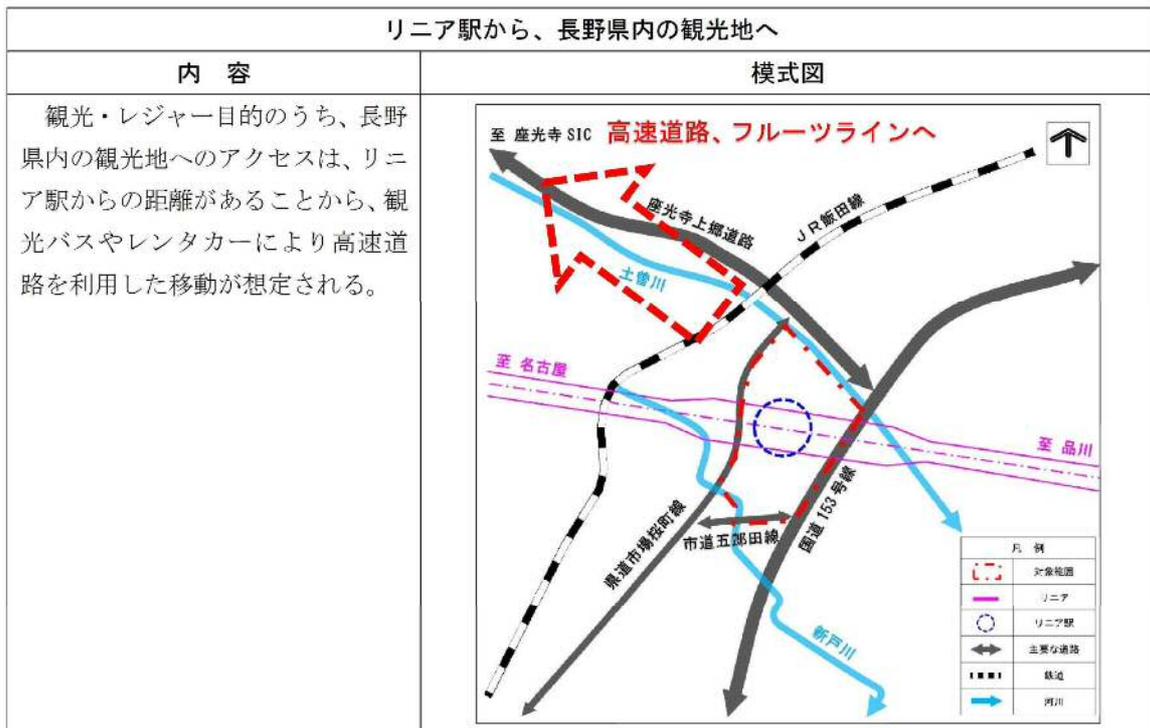
駅勢圏居住者のアクセス

JR飯田線を利用して、リニア駅より乗車	
内容	模式図
<p>JR飯田線の利用者については、乗換新駅の設置を含め今後検討する。</p>	

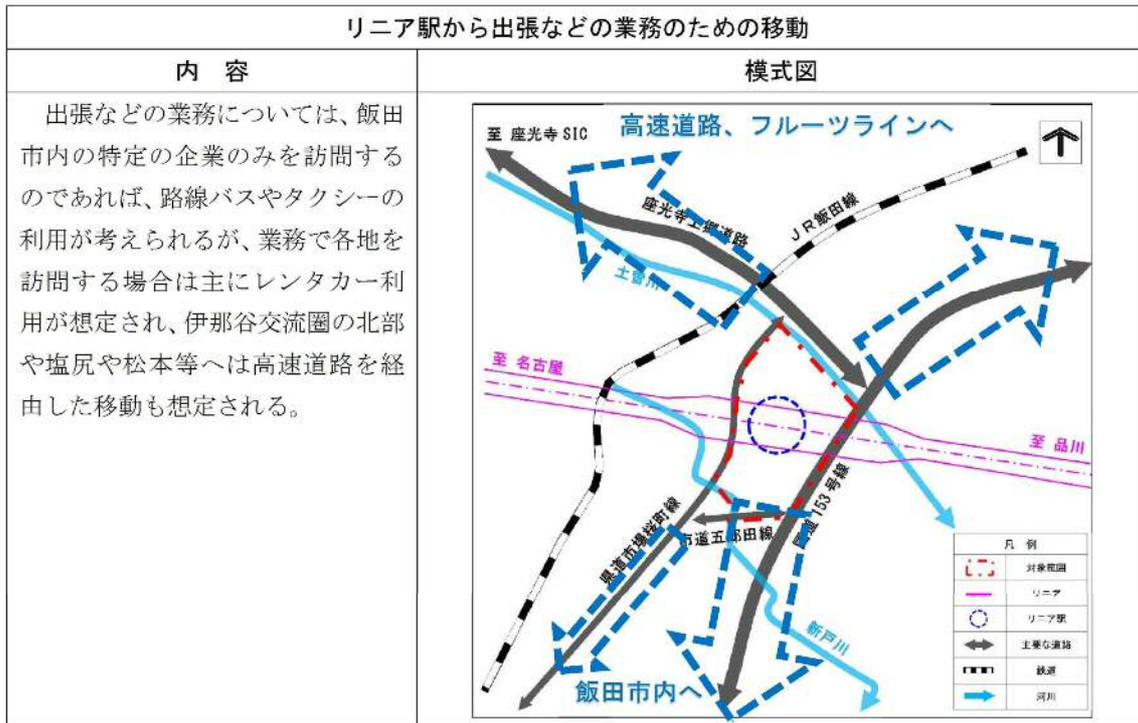
来訪者の移動



来訪者の移動



来訪者の移動



北側と南側で機能を分担

■機能の配置

リニア駅の利用方法の想定から、駅前の機能を次のように配置する。

◇駅の北側：観光バス、高速バス、レンタカーに配慮した広域的な機能の配置

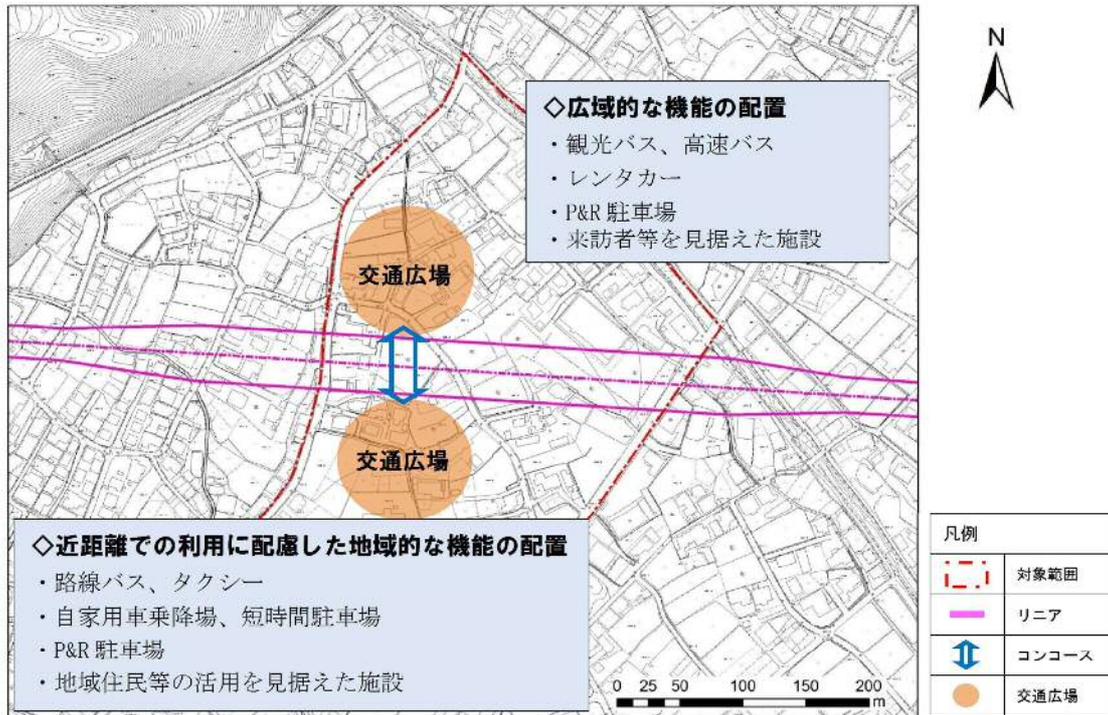
- ・広域的な交通に対応できる機能を配置
(観光バス、高速バス、レンタカー、P&R 駐車場)

- ・来訪者（観光客、ビジネス客）等の活用を見据えた施設配置

◇駅の南側：路線バス、タクシー、自家用車乗降場等の近距離での利用に配慮した地域的な機能の配置

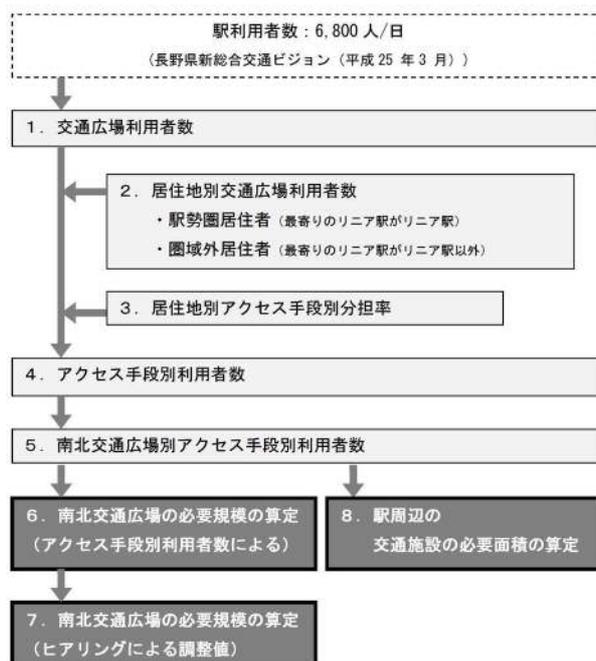
- ・地域的な交通に対応できる機能を配置
(路線バス、タクシー、自家用車乗降場、短時間駐車場、P&R 駐車場)
- ・地域住民等の活用を見据えた施設等を配置

北側と南側で機能を分担



■機能配置イメージ

交通広場の必要規模の算定方法



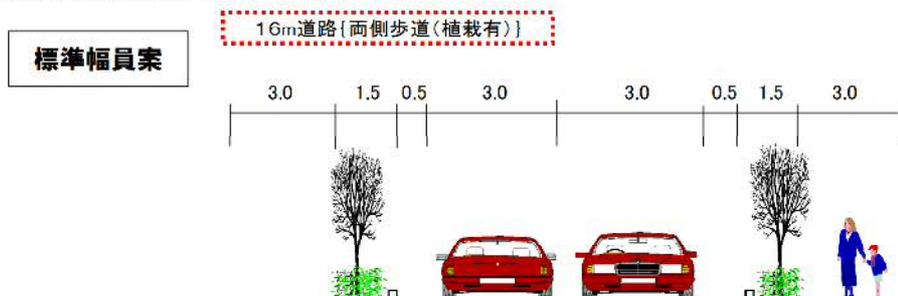
なお、パーク＆ライド駐車場については、基本構想策定時点より新たな変更要素はなく、基本構想時に設定した750台とする。

駅周辺施設の必要規模の算定

1) 交通広場周辺道路（街区道路）

周辺道路の計画交通量から勘察して、4種3級程度の道路が想定される。

具体的には、**2車線道路、両側歩道、植栽帯の設置で幅員16m程度**が想定される。なお、交通広場周辺道路では、駐停車禁止が想定されることから、停車帯は設けないものとする。また、無電柱化について、防災や景観を踏まえて検討していくものとする。



2) 駅利用者利便施設

駅利用者利便施設は、主に**コンコース内に配置**されることが想定されることから、今回の検討では、面積は計上しないものとする。

駅周辺施設の必要規模の算定

3) 魅力発信施設

具体的な施設内容は、魅力発信部会で今後検討していくことになるが、魅力発信の事例として駅周辺に整備された**施設の整備規模を参考に約1ha（駐車場を含む）の規模を確保**する。ただし、魅力発信施設の駐車場については、コンパクトな駅周辺整備を目指し、パーク&ライド駐車場等との兼用を検討する。

4) 観光バス待機空間

観光バスの送迎時待機空間は、北側交通広場内で確保することを検討し、バス事業者等が休憩のための待機空間は、駅周辺では特別に確保することは行わないものとする。

5) 交流施設

交流施設の具体的な施設内容は、魅力発信部会で今後検討していくことになるが、イベントスペース、コミュニティ施設等、人の交流に関する施設とし、地域に対する魅力発信施設として考える。

規模の想定は、**魅力発信施設と同等の約1haを想定**する。

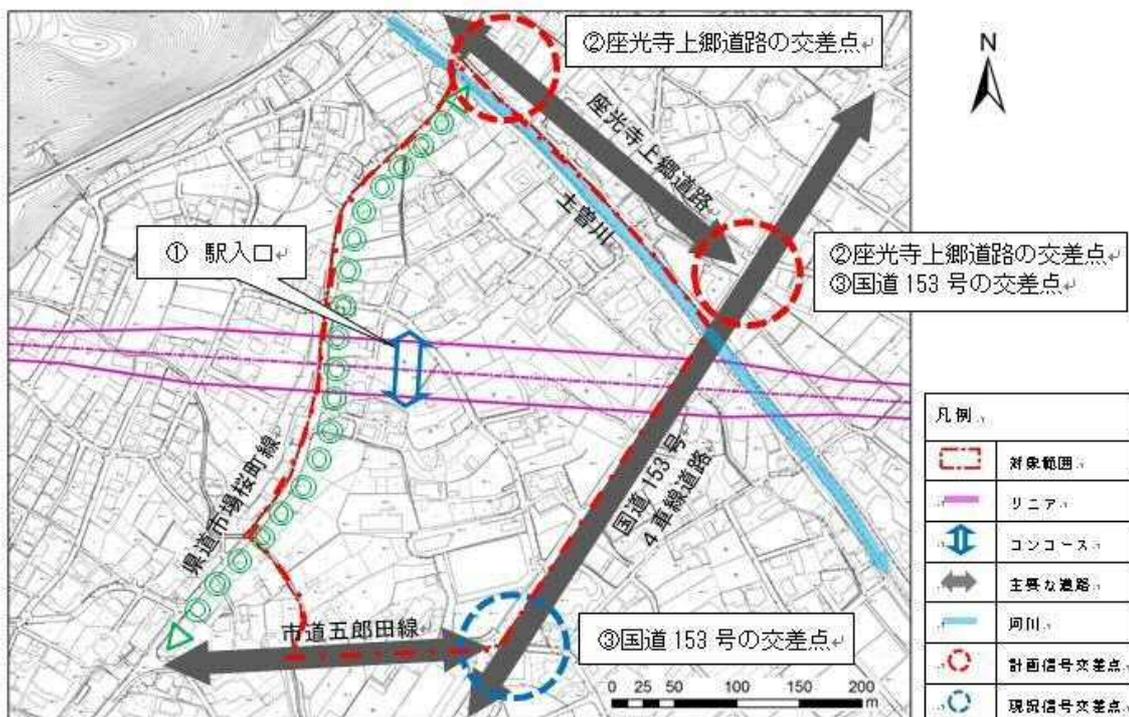
6) 公園

公園については、多目的に使える広場の要素も加味して検討する。具体的な規模は、街区公園の標準面積である**2500㎡を最低面積**とし、イベント時の臨時駐車場にも活用できるようにする。ただし、公園については、コンパクトな駅周辺整備を目指し、交流施設の一部とすることも、今後検討する。

基本計画で基準とする規模の設定

機能・施設		基本構想	基本計画で基準とする規模	
北側交通広場	高速バス	4,920㎡	約4,100㎡	文献と交通事業者等のヒアリングを踏まえ算定式により規模を設定
	観光バス			
	レンタカー			
南側交通広場	路線バス		約3,500㎡	
	タクシー			
	自家用車			
	駐輪場			
駅周辺	P&R駐車場	22,500㎡	約22,500㎡	
	周辺道路	—	約17,100㎡	県道、街区道路
	魅力発信施設	—	約2,000㎡	事例を参考に約1ha。駐車場は、P&R駐車場を兼用
	交流施設、公園	—	約10,000㎡	魅力発信施設と同等
	調整池・緑地等	—	約5,800㎡	
合計		27,420㎡	約65,000㎡	

街区道路配置のコントロールポイント



3)基本計画の検討

街区道路の配置

街区道路配置のコントロールポイント

- 周辺の道路高さ
- 道路縦断勾配 (原則5%以下)



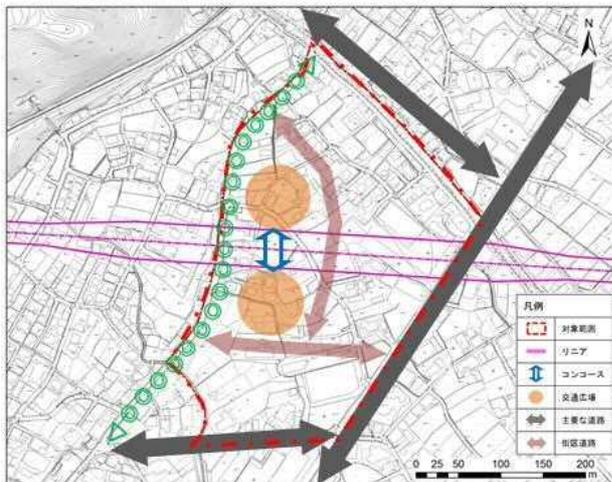
3)基本計画の検討

街区道路の配置

街区道路配置パターン案

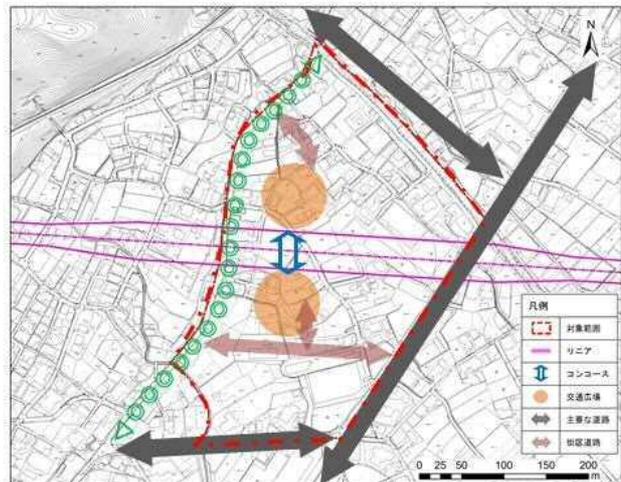
【A案】

- ・ 駅への交通を分離するために市道五郎田線に平行して街区道路を配置
- ・ 南北の駅前を接続。駅周辺に通過交通の発生が懸念される



【B案】

- ・ 駅への交通を分離するために市道五郎田線に平行して街区道路を配置
- ・ 南北道路は配置せず、通過交通を排除し、交通の目的を明確化



街区道路の具体的な配置の考え方

■ 平面的なコントロールポイント

- ①信号交差点間隔は200m以上を目標
- ②交差点は直角に取り付け
- ③交差点の影響範囲に街区道路は取り付けない
- ④街区道路(東西線)はリニア駅と平行に設置

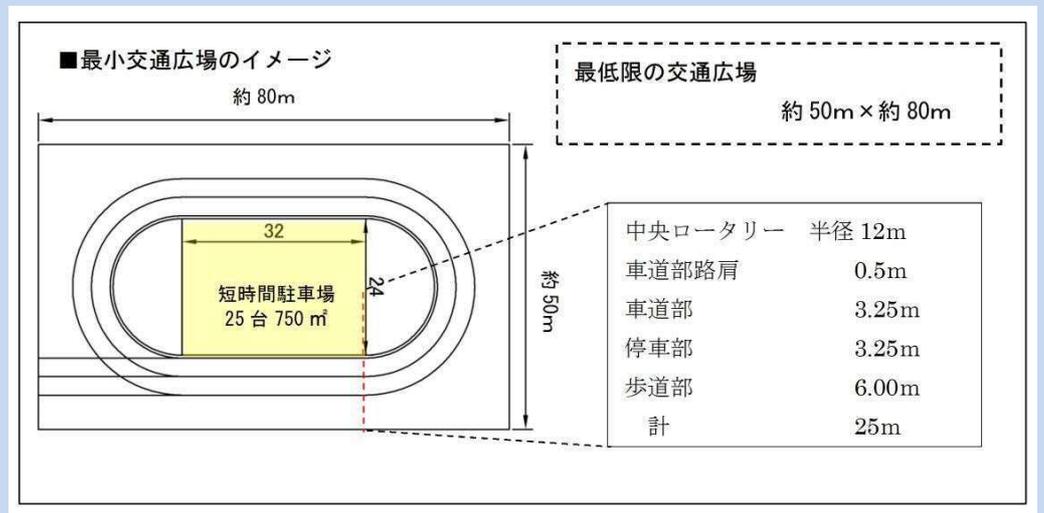
■ 縦断的なコントロールポイント

- ⑤造成高は、国道153号とリニア中央新幹線との交差点付近の標高435.1mを基準
- ⑥街区道路の縦断勾配は、原則5%以下

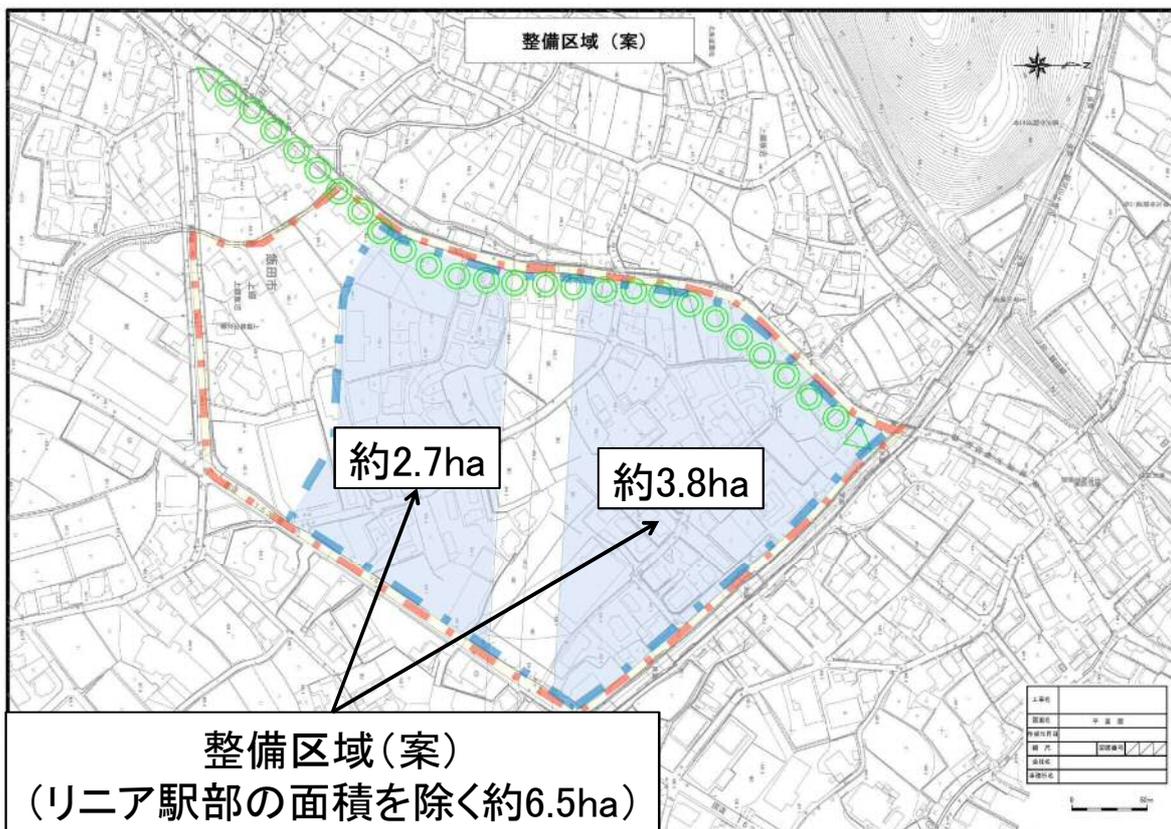
街区道路の具体的な配置の考え方

■ 施設からのコントロールポイント

- ⑦交通広場は、駅の入りの正面に配置
- ⑧交通広場の規模に配慮



3)基本計画の検討



整備区域（案）

土地利用計画における
重点協議区域
約 1.3ha

整備区域（案）（リニア駅部の面積を除く約 6.5ha）

約 2.7ha

約 3.8ha



工事名	
図面名	平面図
作成年月日	
縮尺	図面番号
会社名	
事務所名	

0 50m